米国図書館協会(ALA)

2019 年次大会

「ジャパンセッション」報告書

2019 年 11 月 12 日

目　次

はじめに

■　「ジャパンセッション」開催の経緯と成果 3
■　米国図書館協会(ALA)とその年次大会について.....4

発表編

■　元慶應義塾大学・田村俊作
「イノベーションは日本の公共図書館をいかに変えたか」.....6
■　岩手県紫波町図書館・手塚美希
「司書が人々をつなぎ地域のハブ（要）となる図書館を目指して」.....11
■　鳥取県立図書館・松田啓代
「図書館を活用した認知症になっても暮らしやすい地域づくりサービス事例」.....19
■　広島市立中央図書館・土井しのぶ
「夢の実現を支える図書館サービス」.....25
■　事前申込者一覧 31
■　寄せられた主なコメント 32
■　BIC ライブラリ・結城智里（ポスター発表）
「公共図書館をターゲットとする専門図書館のサービス」.....34

視察編

■　ワシントン D.C.公共図書館ジョージタウン分館.....36
■　ワシントン D.C.公共図書館ウエストエンド分館.....38
■　イーノック・プラット公共図書館 40
■　ボルチモア郡公共図書館 43
■　米国議会図書館 46
■　スミソニアン博物館群フリーアサックラーギャラリー図書館 49

クラウドファンディング編

■　経過報告および会計報告.....52
■　クラウドファンディング協力者一覧.....53
■　広告（ファンディング協力者およびビジネス支援図書館推進協議会賛助会員）.....54

表紙イラスト：三浦なつみ

「ジャパンセッション」開催の経緯と成果

ビジネス支援図書館推進協議会(以下、BL 協議会)の竹内利明会長(電気通信大学産学官連携センター・客員教授)から、米国図書館協会(ALA)での事例発表が最初に提起されたのは、2015 年ごろであったと記憶する。BL 協議会は、菅谷明子氏が 1999 年 8 月に中央公論に発表した「進化するニューヨーク公共図書館」に刺激を受け、2000 年 12 月に発足したという経緯がある。2003 年には、アメリカのニューヨーク公共図書館とシムズベリー公共図書館からスピーカーを招き、東京でシンポジウムも開催した。以後、十数年にわたって、アメリカのようなビジネス支援サービスを、日本の図書館で実現するためにはどうすればいいのか、を主たる問題意識にして活動を推進してきた。

その後、文部科学省や中小企業庁といった行政の支援もあり、全国の公共図書館では、さまざまなサービスが芽生え、めざましい進化を遂げてきた。「ビジネス支援サービス」に限らず、人々の、そして地域の多様な「課題」に真正面から向き合う「課題解決型サービス」の進展は、ここにあらためて記すまでもない。こうした実績を、長年「お手本」としてきたアメリカで発表し報告したいというのが、私たち共通の願いとなった。

まずは 2016 年の ALA の年次大会でポスター発表に参加し、現地における日本の事例の反応を確かめた。一方で、現地の国際委員会と「ジャパンセッション」を開催するための折衝を始めた。日本の公共図書館の現在の姿を多角的包括的に紹介するために「総論」を最初におくこと、「ビジネス支援」に限らず、米国で関心の高い「高齢者サービス」や「地域づくり」についての事例も入れること、などが協議の中で決まっていった。

また、こうしたセッションの開催にあたっては、ALA と長年にわたり関係構築をしてきた図書館総合展運営委員会との共催とすること、渡米や現地の図書館視察を、これも長年の経験を積む丸善雄松堂に企画・運営してもらうことなども、2017 年には確定した。

資金面では、BL 協議会から 100 万円の拠出が認められた。決して財政的に豊かではない任意団体が、十数年にわたって備蓄してきた資金を一気に放出するという大きな決断で、竹内会長をはじめとした理事たちの熱い支援があればこそだった。また協議会の活動を支えてきた賛助会員の各社にも、この場を借りて御礼申し上げたい。

2019 年 5 月情報ナビゲータ交流会で、支援の訴え

とはいえセッションの実現にはそれだけでは足りず、残りの資金はクラウドファンディングで集めることとなった。日本の公共図書館員が、自館の事例を海外で発表する初めてのケースであること、積極的な情報発信は、必ずや今後の日本の図書館の発展に寄与するであろうことなどを訴えた。これには当初の予想をはるかに超える反応があり、2019 年 5 月 7 日からの 1 カ月間で、244 名・団体から 160 万 3000 円の寄附が集まった。海外で日本の図書館をアピールする事業に、これだけの人が賛同することに今更ながら驚き、日本の図書館の発展を願う人々の多さ、思いの強さを再認識した。

こうして実現した今回の「ジャパンセッション」は、120 名の部屋に 170 人が参加する大盛況だった。終了後にとったアンケートでも、多くの参加者が日本の図書館事例に刺激を受け、感動したと記していた。詳しくは本報告書に記載された各自の報告に委ねるが、日米の図書館員たちには共通の問題意識があること、互いの経験を交流させることで一層の発展を遂げられることを、参加者全員が確信したといえる。

今回の成果は、これまでの日本の公共図書館活動のひとつの到達点であると同時に、今後の更なる国際交流や発展につなげる出発点であると認識している。本報告書が、その一助となることを期待してやまない。

豊田恭子(ビジネス支援図書館推進協議会副理事長)

米国図書館協会(ALA)とその年次大会について

米国図書館協会(ALA)は、世界最古にして世界最大の図書館協会です。創設は 1876 年。イリノイ州シカゴに本拠を置き、300 人以上の職員が働いています。会員は 5 万 7000 人。

「図書館サービスおよび図書館員の振興」をミッションとし、「すべての人のための学びを強化し、情報アクセスを保証するためのリーダーであること」を信条に掲げています。

「公共図書館」「学術図書館」といった主に館種などをベースとした 11 の部会(Division)と、「図書館史」「地図」「政府文書」「コミック」「LGBT」といった、サブジェクトや関心領域をベースとした 21 の委員会(Round Table)を持っています。

国際委員会もこの委員会のひとつです。近年 ALA はとみに国際化を強めており、会員は世界 110 か国に広がっているということでした。年次大会では、海外からの参加者を迎えるための特別セミナーやレセプション・パーティがあり、展示会場の一角にも、「国際ビジターセンター」が置かれて、手厚いサポート体制を整えています。

毎年 6 月に、5 日間にわたって開催される年次大会には、2 万人以上の図書館関係者が参加します。500 以上のセッション、800 以上の展示、200 以上にわたる関連イベントで賑わいます。毎年、展示会のみに参加する人々も 6000 人以上いるといわれます。また子連れでの参加も多く、会場には子供たちの姿があちこちで見られました。

近年の展示で目立つのは、漫画やアニメに関するもの、工具・おもちゃ・ゲームなどのグッズ類など。体験型の企画も多く、NASA のブースでは多くの人が簡単な実験やクイズに参加して楽しんでいましたし、ZINE のコーナーでは、子供たちが簡易な手作り冊子の制作にいそしんでいました。また Google や Amazon など、IT 企業の大きなブースも目立ちます。

もちろん、出版物の展示（半年先の出版物がサンプルとして並びます）や作家のサイン会（100 人以上の作家が参加します。毎年、大人気）といった伝統的なイベントも健在です。

また大会期間中、その年の「図書館員が見るべき注目映画」が上映会されるのですが、今年は是枝裕和監督の「万引き家族」がリストにあったのも、日本人としては嬉しい驚きでした。

発表編

部屋の入口に日本の発表が表示されています。

発表直前。余裕(?)の表情を見せる 4 人。

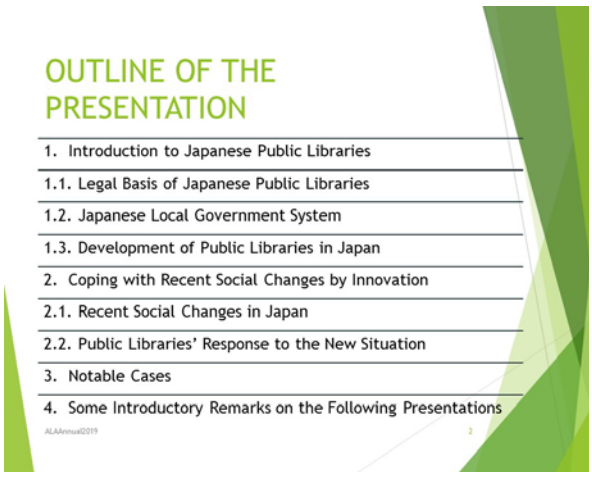
120 人の部屋はぎっしり。立ち見や座り込みも大勢いました。

イノベーションは日本の公共図書館をいかに変えたか

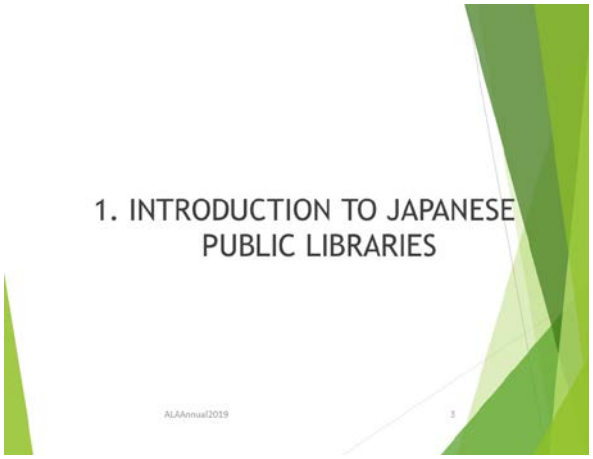
田村俊作（元慶應義塾大学）

抄録　日本の公共図書館は，貸出を中心としたサービスにより急成長を遂げ，地方自治体でもっともよく利用される公共施設の一つになった。日本社会における近年の高齢化と経済の低成長の下で，地方自治体は増大する住民のニーズと厳しい財政運営に直面している。そうした中で公共図書館は，書架の工夫を初めとするさまざまな新しいサービスにより，低予算で，地域に貢献することをめざしている。

プレゼンのタイトルです。ビジネス支援図書館推進協議会のロゴをつけてみました。

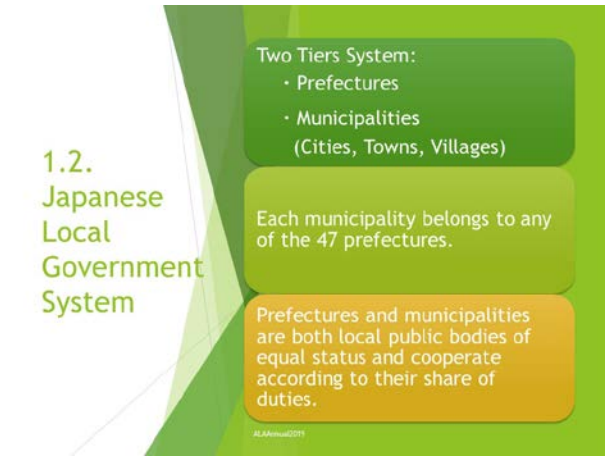


続いて，プレゼンの目次を提示しました。

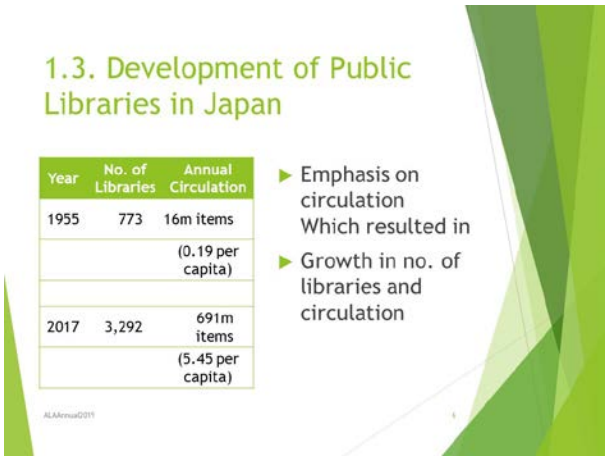


１．では予備知識として，日本の地方自治と公共図書館の概要を説明しました。

日本の公共図書館は図書館法に基づいて設置・運営されており，教育委員会に所属し，資料の利用は無料です。



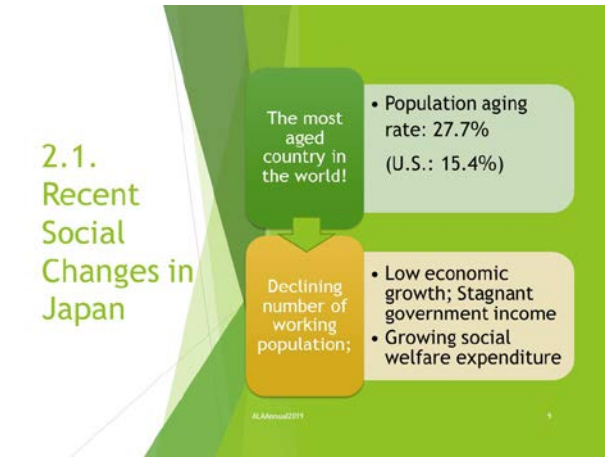
地方自治体には都道府県と市町村があります。市町村はいずれかの都道府県に所属しています。



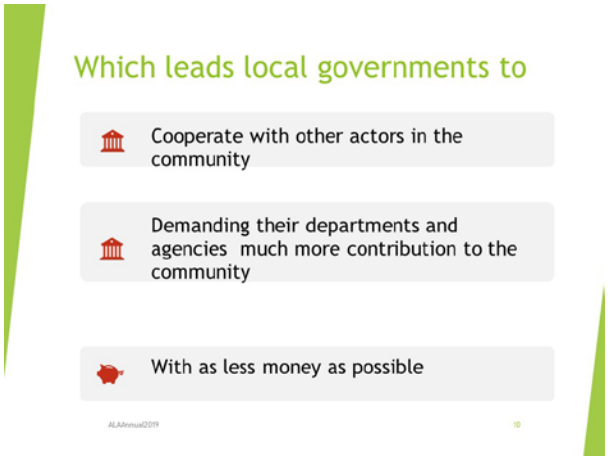
戦後の公共図書館は貸出を中心サービスに飛躍的な発展を遂げました。

いまでは地域の中でもっともよく利用される公共施設の一つになっています。

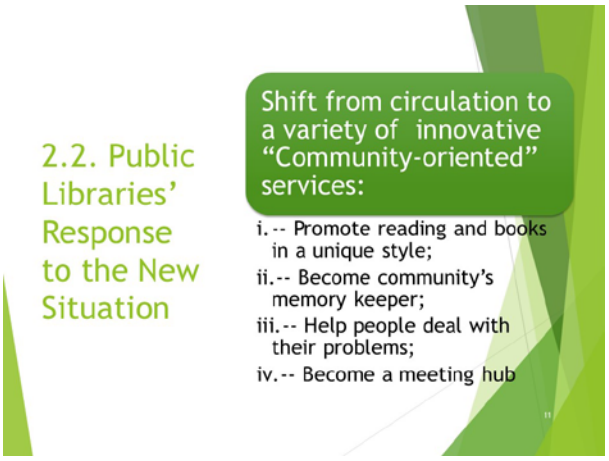
２．では低成長下の地方自治体と公共図書館の動向について説明しています。



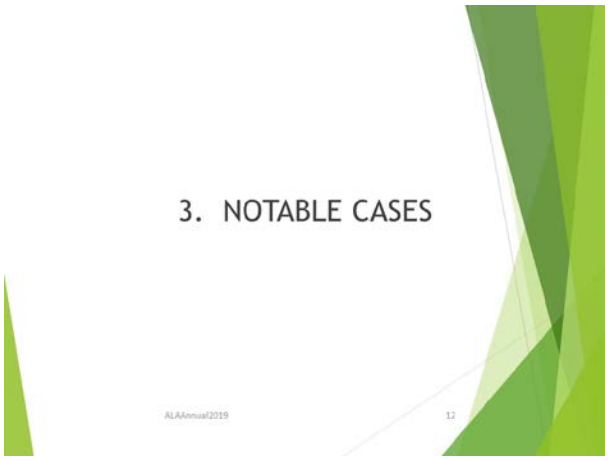
低成長下で高齢化が進んでいるため，地方自治体は財政的に厳しい運営を強いられています。



地方自治体は，地域ぐるみでの取り組みを進め，効果的・効率的な運営をめざしています。



こうした状況下で，公共図書館は地域に貢献することを狙いとする多様な新しいサービスを提供しています。



３．では新しいサービスの例をいくつか紹介しています。

地元のサッカーチームと連携して，選手のおすすめ本を展示しています。（調布市立中央図書館）

図書館員のおすすめ本を展示しています。（平戸市未来創造館）

ビブリオバトルは，発表参加者が読んで面白かった本を紹介し，面白さを競うというユニークなイベントです。

ウィキペディアタウンは，地域の名所の記事をウィキペディアに載せようとするイベントです。

金沢で行われたウィキペディアタウンの様子です。郷土史家の案内で兼六園を見て回ります。

会場である石川県立図書館に戻り，ウィキペディアンから記事の書き方について説明を受けます。

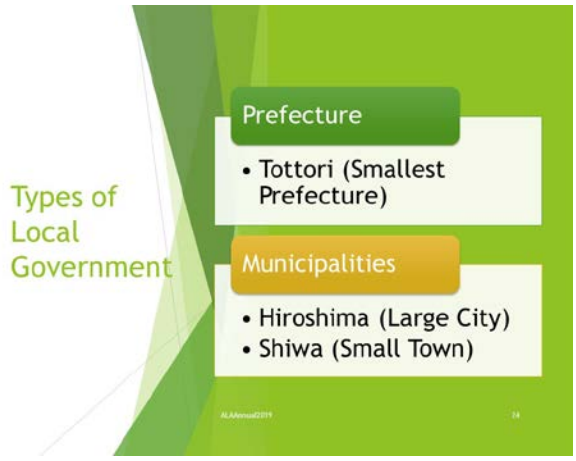
グループに分かれて，図書館の資料を使い，兼六園内の建造物などの記事を作成します。

見かけた場所を市民が記録することにより，市民参加のたぬきマップが作られます。（愛荘町立愛知川図書館）

商店街のお店の人が講師になって講座を開催する「まちゼミ」に図書館が協力します。（調布市立図書館）

カフェと書店を併設しておおぜいの市民が楽しんでいますが，論議を呼びました。（武雄市図書館）

4．では，最後に，この後の 3 人の発表について，どのような地方自治体の事例なのかを簡単に紹介しました。



鳥取は県立，広島は大都市，紫波は小さな街の図書館です。

皆さんがこの後の 3 人の発表を参考にしていただければ幸いです，ということばで終わりました。

私の発表風景です。聴覚障害の方も熱心に聞いてくださいました。

こちらは会場の全景です。立ち見の人たちがいます。

【発表を終えて】

昨年・一昨年のポスター発表の経験から，反応はそう悪くないのではないかと思っていましたが，まさかこれほどの反響を呼ぶとは思ってもみませんでした。
会場の皆さんは熱心に聞いてくださり，「ビブリオバトル」や「たぬきマップ」に笑ってくださいました。最後のスライドの私のイラストにも笑いがあったように記憶しています。
貸出に注力してきた，と話したとき(6 枚目のスライド)に起きた笑いは気になっていましたが，豊田恭子さんが確かめてくださったところでは，「日本も同じなのね」という共感の笑いだったそうで，安心しました。
この成果をこれからの外国との交流にどう活かしていくかが課題だと思っています。皆さんと考えていければ嬉しいです。

司書が人々をつなぎ地域のハブ（要）となる図書館を目指して

手塚　美希（紫波町図書館　主任司書）

抄録　図書館がなかった農業主体の町に図書館が開館して６年。基幹産業である農業関連、企画展示など、人々とのかかわりから得た情報から課題を発見し、情報を編集、再発信しながら、司書が町の情報のハブ（要）になろうと試行錯誤している。地域に出ていく図書館の取り組みと、町がどう変化してきたかを合わせて紹介する。

紫波町図書館主任司書の手塚美希です。本日みなさんに、私たちの図書館と町についてお話できて光栄です。

私は図書館のない小さな村で生まれ育ちました。情報に飢えた子ども時代。いつか村に図書館をつくることが夢でした。

紫波町は 33, 000 人の小さな町で、図書館がありませんでした。幸いにも新しい図書館の準備に携わることになりました。

基幹産業が農業のため、今着用しているユニフォームも農場のスタイルです。フルーツ、米、野菜、畜産などを生産し、酒蔵やワイナリーもあります。

町には大きな課題がありました。若者の流出と生産者の高齢化で、産業としての農業も年々厳しい状況になっていました。

9 年前、町は駅前の未利用地を活用したオガールプロジェクトによって、この問題を解決することにしました。現在の様子をお見せしましょう。

動画により、広場、図書館、産直マルシェ、サッカー場、カフェ、田園風景、秋祭りの山車などを紹介。

オガールプロジェクトは地域に新しい変化をもたらしました。図書館が開館して以降、私たちが行ってきた取り組みを紹介します。

私たちはコミュニケーションを大切にしています。町にとって何が重要な問題か、何が起こっているのか、どのように解決できるかについて話し合います。

企画展示は本を集めるのが普通ですが、私たちの場合、常に町の人々を巻きこみます。テーマを設定したら、それに精通した地域の人々を探し、外に出ていきます。

例えば、林業の後継者不足。森林に囲まれた紫波町にとっては深刻な問題です。

その後、新たに林業に取り組む若者たちがいることがわかりました。彼らの話を聞きに出かけると、実際、仕事を楽しんでいることが分かりました。

彼らのユニフォームはかっこよく、道具も進化し、想像していたほど仕事は過酷ではないとわかりました。図書館ではそれを紹介することにしました。

より多くの人々にこの仕事に興味を持ってもらえるよう、ユニフォームや道具などを、彼らの言葉とともに展示しました。

これは日本の伝統的な和菓子を作る木型です。こちらの職人には後継者がいません。彼の引退とともに、菓子型は使われなくなるのです。

展示ではいつも実物と関係者に関する情報を合わせ、来館者がより実際の人々や文化について理解しやすいよう、ディスプレイを工夫します。

これはフライフィッシング用の手作りの釣り竿。この職人の仕事と生活について紹介したかったのです。

この場合も、釣り竿とともに、釣りや作った職人に関する情報を、釣りに関する本とともに展示しました。

これは先ほどの動画で紹介した、秋祭りに使われた山車の人形です。展示したいとお願いしたところ、快く協力してくれました。

山車の人形は通常、祭りの三日間の後で壊されますが、館内では長期間、じっくり人形を楽しむことができます。

展示に協力してくれた人々に、図書館について知ってもらう機会にもなります。今まで図書館に来たことがなかった人とも仲良くなることができました。

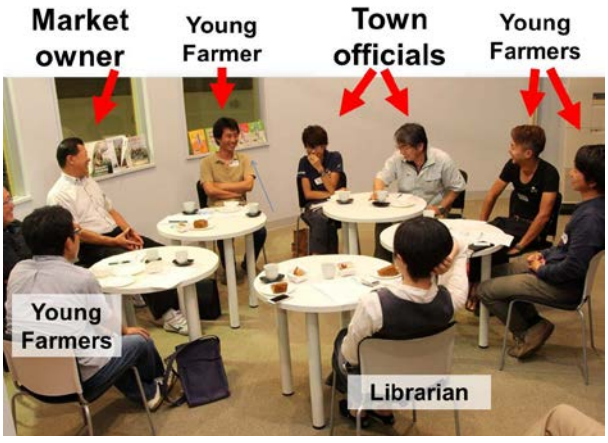
こういった伝統的なデザインを探し、一堂に集めて「紫波のデザインをさがそう」と名付けた展示を開催しました。これらは町のアイデンティティだからです。

町から消えゆくものの数々を紹介したこの展示は、反響が大きく、初めて来館する人も多くいました。

過去 6 年間で行った企画展示は、年 10 回、全 60 回。そのたびに新たな情報が集まり、町内外に新たなネットワークが生まれています。

司書自身がデータバンクとなり、利用者へより良いレファレンス・サービスができるようになります。また町が直面している問題の理解にもつながります。

人と人も直接つなぎます。別の野菜や作物を栽培している若手農家や、違う背景をもつ人々が出会うと、予期せぬ変化が起こります。



この日は、産直の営業部長、若手農家、役場の農業関係者、JA 職員、司書が集まって話しています。図書館は、お互いの考えを学ぶ場所にもなります。

図書館から遠く離れた地域の農家には、私たちが農村部へ出張して情報を届けます。

農業専門の出版社と一緒に回り、出版社は全国の野菜づくりの達人の技やヒントを、映像で紹介します。

80 代の女性は「こんなに簡単な方法があるなんて知らなかった」と言い、他の方は「農業がもっと楽しくなる」と言いました。

「出張としょかん」の最後には必ずこう伝えます。「図書館へ来ればもっと多く農業の本や DVD があり、調べものの相談をすることができますよ。」

出張としょかんを開くたびに、その後来館者がやってきます。ある日、図書館に瓶に入れたサトイモについた幼虫を持参して、駆除の仕方を調べに来た方がいました。

農業のデータベース「ルーラル電子図書館」から駆除の仕方を調べて提供したら、とても喜ばれました。

毎年、オガールの広場では、地元のビール会社のビアフェストが開催されます。大人はクラフトビールを楽しみ、子どもたちは司書による青空おはなし会を楽しみます。

Event for adults who cannot come to the library during the daytime

日中来館できない働き盛りの大人のためには、トークイベント「夜のとしょかん」を開催しています。

司書はコミュニティのハブ（要）です。私たちは人と情報、人と人をつなぎます。地域へ飛び出し、人々とその営みについて学ぶことを心がけています。

People attached to the town
Care about the community
Proud of living here

紫波町は徐々に変化し、活気が生まれてきました。人々が町に愛着を持ち、コミュニティを気にかけ、ここに住むことに誇りを持つようになりました。

People enjoy stories, thinking about issues, and rediscovering the community.

図書館は人々の好奇心を満たす場所。興味深い話を聞いたり、町が直面している問題を一緒に考えたり、コミュニティについて再発見する楽しみもあります。

Leave no one behind
Meet every single person in town
Connect them to what they need
Ensure they belong to the community

誰も置き去りにしたくないから、会いに行きましょう。町の一人ひとりが、知ること、必要なものや世界につながることで、新しいことが生まれ、変化が起こるのです。

Connecting townspeople as a hub of the community

私たちの取り組みは始まったばかりです。図書館は地域社会のために何ができるか考えることを止めません。地域のハブとして人々に寄り添い、つなぎ続けます。

ありがとうございました。（日本語）

発表スライドをパソコンに取り込み。動画が再生されるか、音声は出るか、直前までハラハラ。

着用したユニフォームについて紹介したとき、ジョークを入れた場面などで笑いが起きました。会場の方々が一生懸命聞き取ろうとしている空気を感じました。

発表終了後に、感想や質問を数人、話しに来てくださいました。

熊谷泉紫波町長がワシントン D.C.の会場に駆けつけ、発表後に労われました。

【発表を終えて】

英語が全く話せない私の一番の不安は「私の発音、通じるのか？」。200 以上あるセッションで、ジャパンセッションを選ぶ人はそれほど多くないはず。が、参加者が会場に入りきれないほど次々やってくるのを目の当たりにし、不安と緊張が頂点に。

壇上に立つと、目の前に手話通訳の方。私のスピーチを耳で聞いて手話をするのだとわかった瞬間、「この方に伝わるように話そう」と決意、それからリラックスして話すことができました（英語が通じたかは別の話）。

直後に会場に沸いた拍手は、町、職場、ALA 準備グループ、今まで尽力くださったすべての皆さんに向けられたものだと強く思い、感無量になりました。

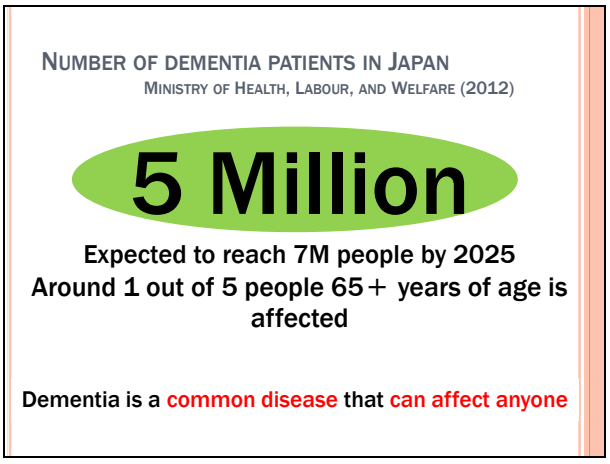
発表の出来不出来よりも、他国の図書館員にまずは伝えること。お互いにそう違いはない思いがあると共有できたこと。日本にいては気づけませんでした。より多くの日本の図書館員が経験できることを切に願います

図書館を活用した認知症になっても暮らしやすい地域づくりサービス事例

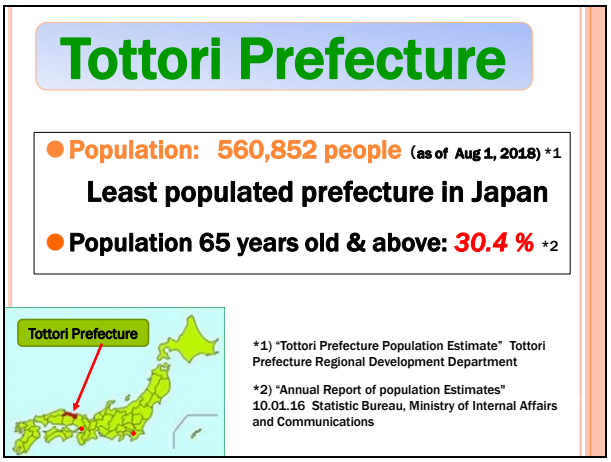
松田啓代（鳥取県立図書館　情報相談課長）

抄録　日本は高齢化が進んでおり、認知症患者は 2025 年には 5 人に 1 人を超える見込み。鳥取県立図書館では医療・健康情報サービスを 2006 年より開始し、同時に「認知症の人と家族の会」と連携を続けてきた。患者や家族、施設や病院、地元大学や行政機関と連携しながら取り組んできた「認知症の人や高齢者にやさしい図書館づくり」について、闘病記文庫や音読教室等のサービス事例を交えて紹介。

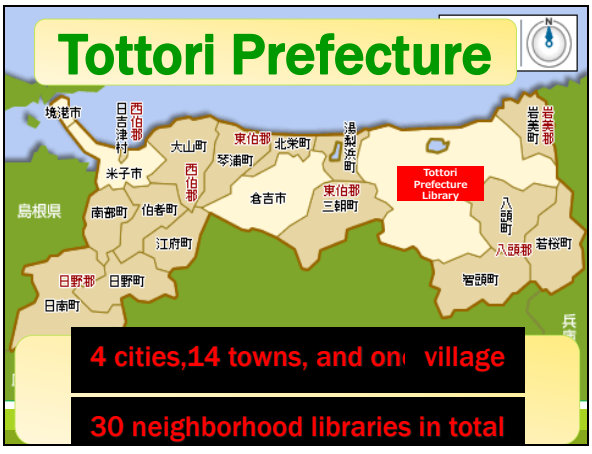
鳥取県立図書館の「認知症になっても暮らしやすい地域づくり」についてお話します。



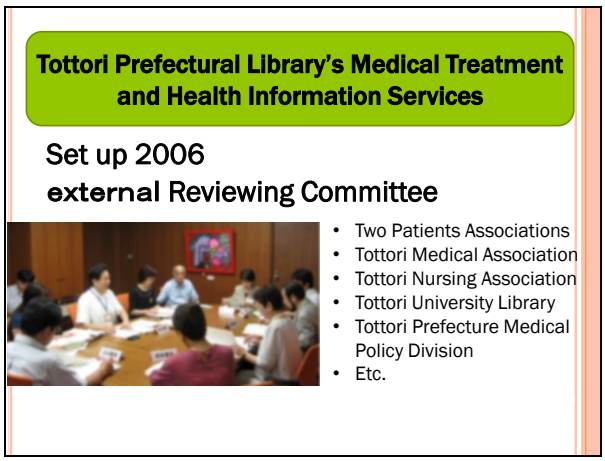
日本の認知症患者数は 2012 年時点で 500 万人。2025 年には 700 万人（5 人に 1 人）を超える見込み。



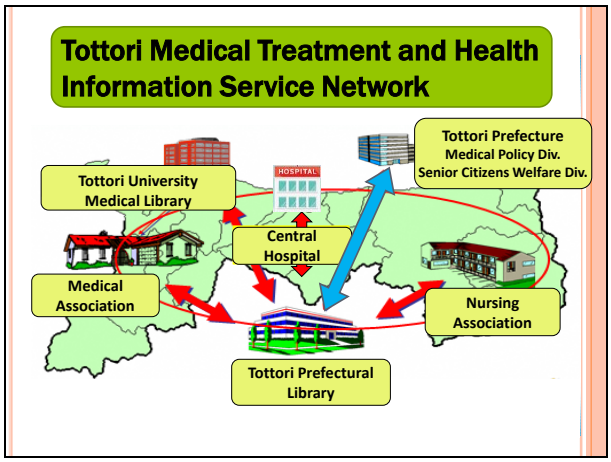
鳥取県の人口は日本一少なく、65 歳以上が 30%を超えており、高齢化が進んでいる。



鳥取県は 4 市、14 町、1 村。鳥取県の公共図書館は鳥取県立図書館と市町村立図書館 30 館。

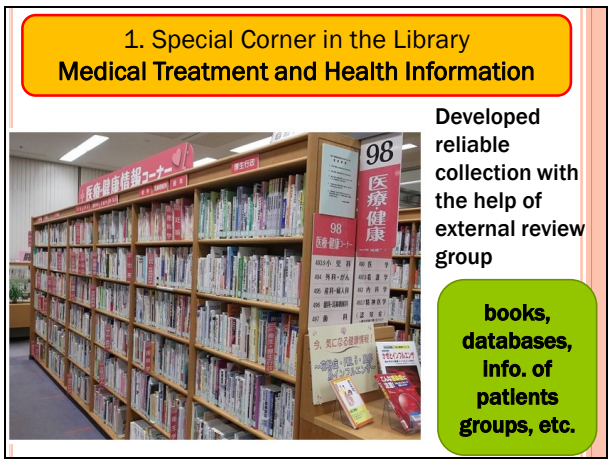


鳥取県立図書館は 2006 年に医療・健康情報の外部委員会を立ち上げてサービスを開始。

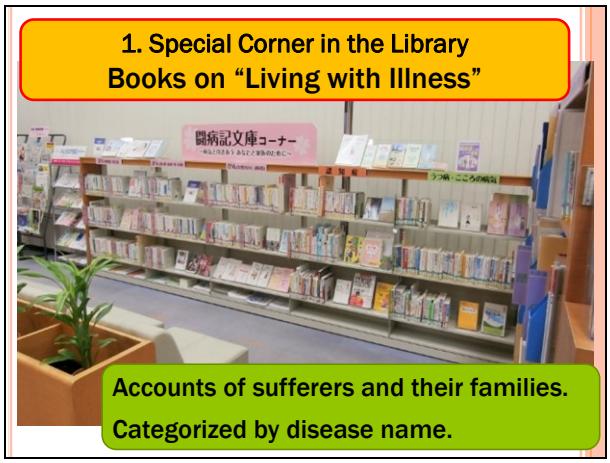


医療・健康情報サービスネットワークによって、医療・健康に役に立つ情報や図書等を県民に提供。

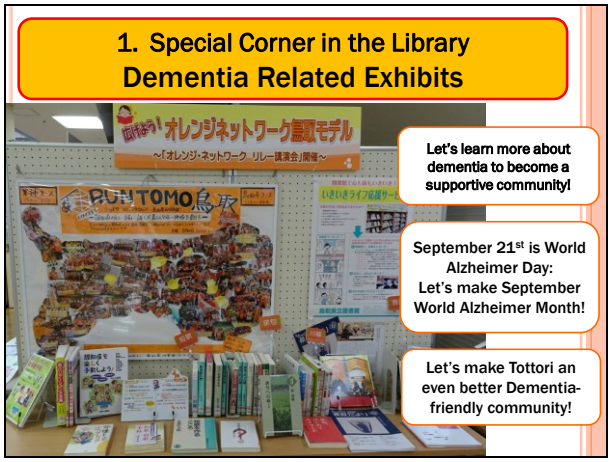
取り組み紹介
1. 専門コーナーの設置



「医療・健康情報サービスコーナー」外部委員の助言を得ながら信頼できる図書、データベース等を整備。

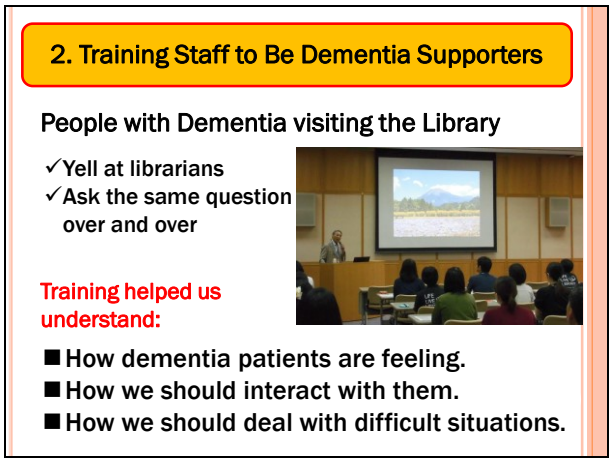


「闘病記文庫コーナー」
病名ごとに配架し、本が探しやすくなっています。

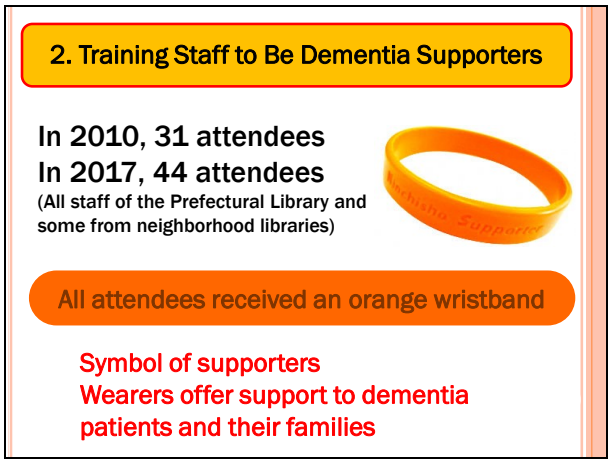


毎月、医療・健康情報に関するミニ展示を実施。世界アルツハイマー月間（9 月）には「認知症になっても暮らしやすい地域づくり」というテーマで展示。

2．認知症サポーター養成講座（職員研修）



認知症の最新情報、認知症の方へのサポートの仕方を学びました。

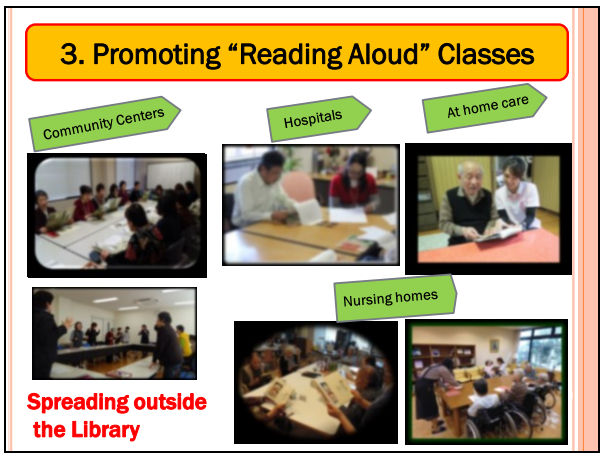


図書館職員が認知症サポーター養成講座を受講し。オレンジリングを受けとりました。

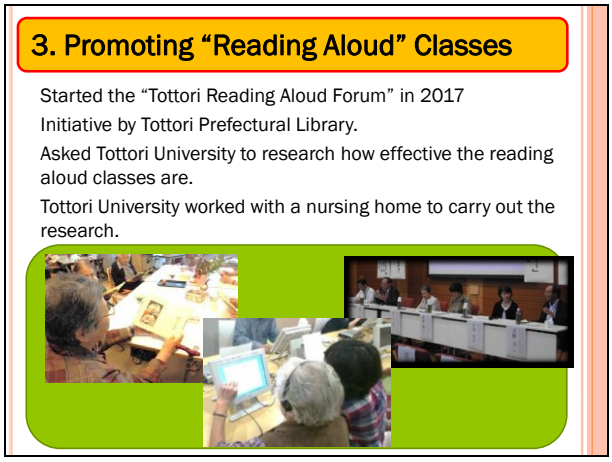
2017 年オレンジネットワークプロジェクトチーム発足！オレンジリング携え、人と情報、人と人を結びます。

３．音読教室の普及促進

2012 年に「あたまイキイキ音読教室」をスタート。脳が活性化され、認知症予防になると好評。



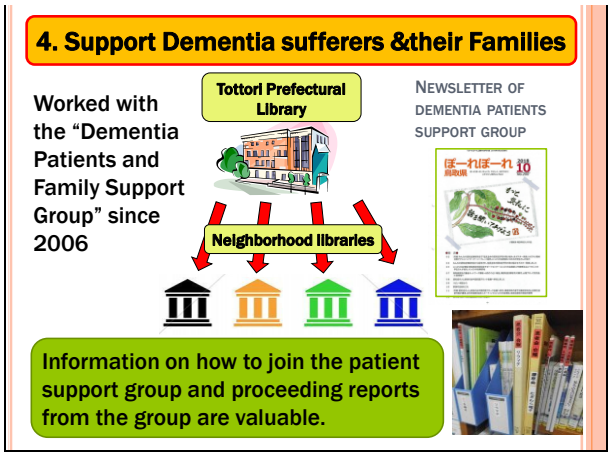
図書館以外にも広がる音読教室。公民館、病院、介護施設、認知症の人の家へ、近くの図書館から本を借り実施。



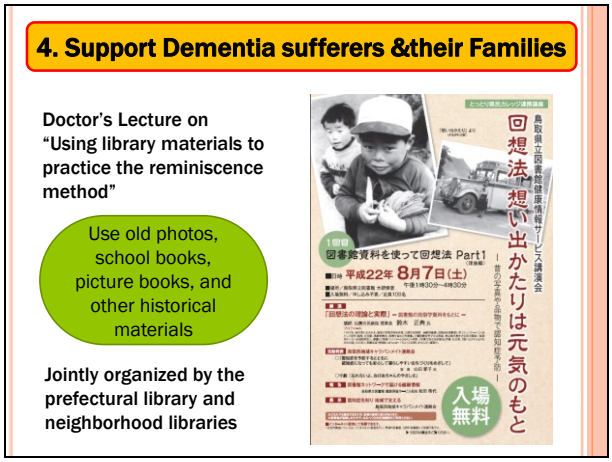
「音読フォーラム in とっとり 2017」鳥取大学、市立図書館、長寿社会課、認知症の人と家族の会の連携を発表。

とっとり県政だより（2018. 6）に県立図書館が鳥取大学、高齢者施設に依頼した調査により、音読が認知症に効果があったという結果が掲載された。大きな反響があった。

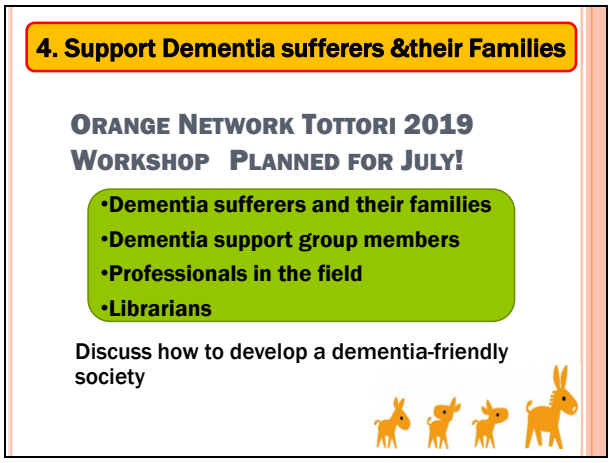
4. 認知症の人と家族の会への支援



「認知症の人と家族の会」は 2006 年より会報を県立図書館へ寄贈。認知症の人や家族は、近くの図書館で情報を得ることができ、家族の会へとつながっていける。



2010 年、回想法の講演会を開催。回想法の専門医師が図書館の古い写真集や絵本等を活用。



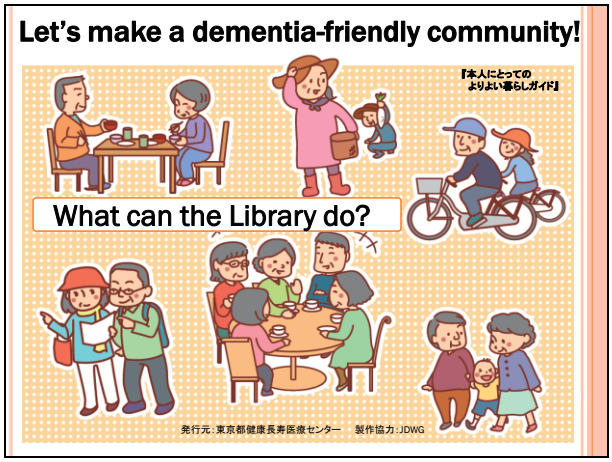
「オレンジネットワークとっとりワークショップ 2019」6 月に開催予定！

5. 暮らしやすい地域づくり

2018 年 6 月　図書館の中庭でオレンジカフェを開催。認知症の人とその家族、図書館を訪れる人が交流。

図書館で『認知症になってもだいじょうぶ！』の著者の藤田さん（認知症当事者）とその主治医の対談を開催。

ラントモ鳥取。様々な人・職種が連携！平井知事も一緒にゴール。図書館は認知症に関する図書展示。



認知症になっても暮らしやすい地域づくりを進めていきましょう！図書館は、暮らしやすい街になることを目指して活動します

鳥取県立図書館はライブラリーオブザイヤーを２回受賞。鳥取県は風光明媚で美味しい食べ物が豊富。

コナン＆鬼太郎のパンフを掲げて「まんが王国とっとり、鳥取県立図書館へおいでください」とＰＲ！

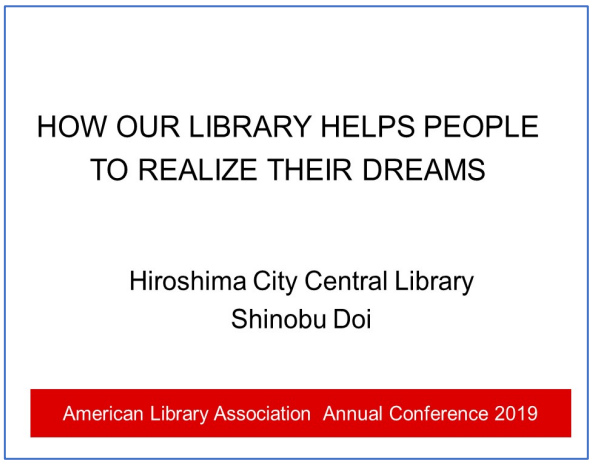
会場全体が静かな期待感に包まれていたように感じました。発表にも熱がこもり、だんだん声が高くなっていったようです。

【発表を終えて】
十数年前に米国の取り組みを参考に手探りではじめたわが国の医療・健康情報サービスを、多くの米国の司書の方々を前に生の声で伝えることができたことに深い感慨を覚えました。180 名もの方が熱心に耳を傾けてくださいました。これは偏に我が国の課題解決サービスを支援していただいた関係者の総力の賜物です。
発表後のアンケート等に、「先進国の人口問題は日本の後を追っている。老齢化が進み認知症の人々の孤独をどう減らし、認知症そのものを乗り越えさせていくことは重要な問題。」「貴館のアプローチはとても参考になる。音読教室を自分たちも地元の老人センターと一緒にやってみようと思う。」「ＰＤＦ、素晴らしい！」などの声をいただきました。
今後も高齢者、医療・健康情報サービスをできることから地道に取り組み、高齢化の進んでいる我が国から広く発信していきたいと思います。

夢の実現を支える図書館サービス

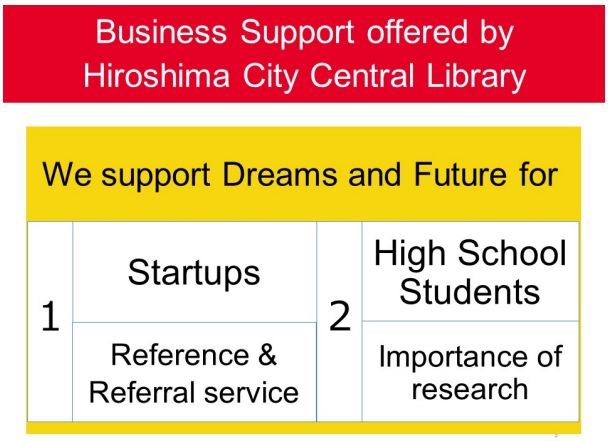
土井　しのぶ（広島市立中央図書館）

抄録：産業支援機関や金融機関と連携し、「ビジネス相談会」、「高校生ビジネスプラン作成講座」を開催し、司書が資料・情報提供のサポートをして、さまざまな成果を着実に産み出しています。その事例として、定年前に夫婦でお店を開業した人やずっと夢に描いていたお店を開業した人、また、若者ならではの自由な発想で高校生の身近な悩みや地域の課題をプランにして全国大会で発表した地元の高校生など、その取組みは、「夢」や「未来」につながるサポートをしています。

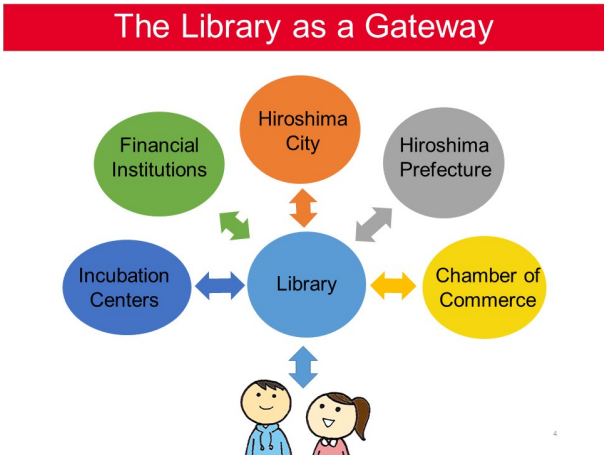


広島市立中央図書館の土井しのぶと申します。本日は、夢の実現をサポートする私たちの図書館のサービスについてお話しします。

広島市立中央図書館は、県庁やビジネス街・商店街などがある広島市の中央にあり、広島城から原爆ドームへと歴史をつなぐ場所にあります。



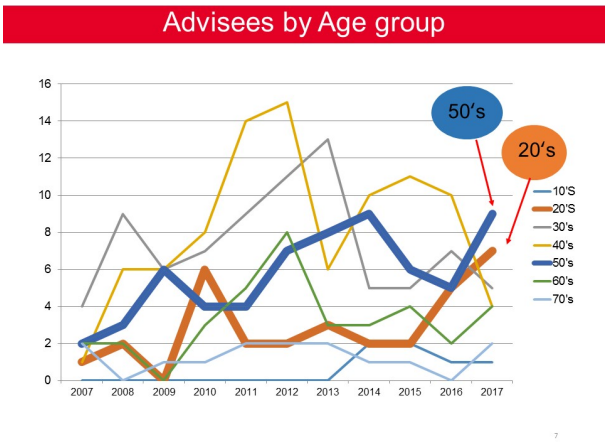
広島市立中央図書館のビジネス支援サービスは、２つの分野に焦点を当てていて、１つ目は起業支援、２つ目は高校生へのサポートです。



図書館は誰でも相談しやすく、入り口の役割を果たしています。基本知識を学ぶ資料を提供したり、必要に応じて他機関にナビゲートして、実現につないでいます。

ビジネス相談会を毎月 1 回開催。司書は事前に相談内容をインタビューして、専門家につなぎ、当日は同席して必要な資料・情報を準備します。

相談内容に関連する資料や情報を事前に準備し、相談会中にも閲覧室に取りに行って提供します。また、データベースの案内をします。そして継続してサポートします。



年齢別のビジネス相談会参加数のグラフです。10 代から 70 代のすべての世代がサービスを利用し、最近は定年前の 50 代が増加しています。

相談者の夢は、多くの産業分野に分かれています。飲食関係がいちばん多く、過去 10 年に渡って新規開業などをサポートしています。

中村さんご夫婦は、定年後、創作おはぎのお店を開業。司書は起業方法、商圏情報、また広島の菓子の歴史等の地域情報の資料や情報を提供し、継続して支援しました。

坂本さんは、大学卒業後、当館の創業セミナーに参加しレトロな喫茶店を開業。事業計画書や商圏情報等の資料・情報を活用して、金融機関から融資を受けました。

#3 Herb Shop “Soujya KAMAU”

March 2013

柏木さんはハーブ専門店を開業。当館の創業セミナーや相談会に参加。店内のインテリアやソーシャルメディアに関連する資料等が特に役立ったということです。

#4 Aromatherapy “Healing Space Micro”

October 2014

▲Aroma treatments at home salon ▲ Salon for caregivers

砂川さんは自宅でアロマセラピーのお店を開業。サロン開業の資料や商圏情報等を提供したことから、迷っていた顧客層を、高齢者施設や介護者向けに特定しました。

#5 Shogi School “Edu Shogi School ”

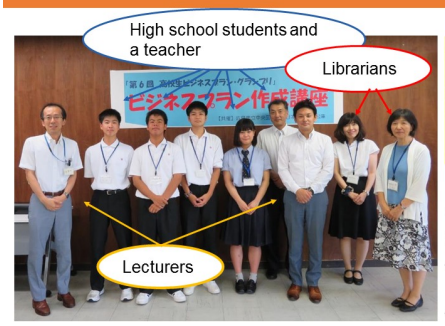
July 2016

桝本さんは、当館創業セミナーや相談会に参加し、こどもの将棋教室を開業。商圏情報等を提供し、最近 4 番目の教室を開設し、事業を展開しています。

The library acts as a support for each one. They can consult us for anything and come back to us at any time.

どこに相談したらわからない多くの人に、図書館の特性を活かし、それぞれの夢を実現するために、最初の一歩として寄り添いサポートしています。

2 Business Plan Writing program



Support high school students entering the Business Plan Competition

- Since 2013
- Annual
- Thousands of ideas
- All over Japan

高校生の若者らしいアイデアや身近な課題解決のためのビジネスアイデアを生み出し、プランを作成し、コンペティションへの応募をサポートします。

How we support high school students

高校生のアイデアやプランに関連するレファレンスブック等を事前に準備したり、講座中にリアルなレファレンスに対応して、実践的なサポートをします。

Students Create Their Own Business Plan

Working on a plan sheet, using the research materials

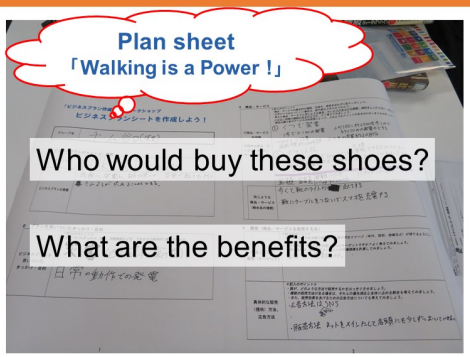
高校生が考えたアイデアを、図書館の資料・情報を調べ活用して、プランシートを一生懸命作成している様子です。その熱心な様子が伺えます。

Students Create Their Own Business Plan

Copyright (C) INSTITUTE OF SCIENTIFIC APPROACHES FOR FIRE AND DISASTER

この高校は 2018 年に広島で豪雨災害が発生した災害地に近く、停電を経験しました。その経験から高校生自身が動くことで発電するシューズを発想しました。

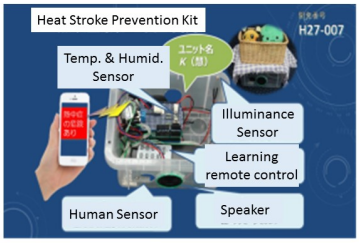
Students Create Their Own Business Plan



この発電するシューズをどのようなビジネスするのかを考え、プランに落とし込むことは、これから高校生の未来に役立つ優れたライフスキルとなります。

The group reached the final 10 of the National Competition (Award for Excellence)

2015



"Heat sensor development to save elderly persons from heat stroke"
Learn how to research people's needs and how to respond to it.

この高校は高齢者が多い地区で、高齢者を熱中症から守るために、工業高校の特性を活かし、センサーを使ったアイデアを発想。実際に制作し当館で展示しました。

Presentation Practice for High School Business Plan Competiton

Students from different schools discuss their ideas and exchange their opinions

Prepare for the competition

作成したアイデアやプランをプレゼンテーションします。参加している他校のアイデアからブラッシュアップし、また、交流を図る機会となります。

The group reached the final 10 of the National Competition (Award for Excellence)

2018

"Bicycle Traffic Safety Service"
Drive recorder for preventing accidents

高校生に多い自転車事故のトラブルを解決するために、自転車用ドライブレコーダーのプランを応募。全国の応募約 4,300 件中ファイナリスト 10 に選出されました。

高校生はビジネスの知識だけでなく、身の回りや地域課題に気づいて調べたり、情報リテラシーも学びます。そして将来に続く図書館利用者となることを目指します。

この高校生への支援を、丁寧に取材をしていただき、『夜明けの図書館　第５巻』埜納タオ/著　双葉社に、「芽生えるアイデア」として、掲載していただきました。

市民の課題を解決するサービスとして、ビジネス支援サービスは非常に重要で、図書館の特性を活かして、市民や行政を継続してサポートしています。

図書館は夢を叶えるために、誰でもサービスを受けることができ、寄り添ってサポートしています。そして、それが今後の広島の繁栄につながっていけばと願います。

私たちの図書館の取り組みについて発表させていただいて、大変光栄です。ありがとうございました。

【発表を終えて】ビジネス支援サービスの本場であるアメリカの大会で、定員を上回るたくさんの参加者の前に立つと、緊張と興奮でいっぱいになりました。この場所に来るまでに、苦手な英語を勉強し、発表資料をつくるために、チームで何度も打ち合わせし、練習をしたことを自信にして臨みました。これまでに感じたことがないほどの特別な空気感で、会場にいるのは各国のライブラリアンやその関係者の方たちだと思うと、親しみを感じながら、その真剣な眼差しに背筋が伸びました。英語が通じているのか不安になりつつ、ひとりひとりの表情を伺いながら、想いを込めて発表しました。そして発表後、何人かの方に「すばらしい取り組み」と伝えに来られ、「日本の図書館もがんばっている」と自信をもちました。私は参加者の様子から、ライブラリアンとしての自信や意欲をひしひしと肌で感じました。この報告が、こうした現場でしかできない生の体験を、今後多くの日本の図書館員がチャレンジする機会につながればと思います。

【発表前】ＡＬＡ年次大会の会場内で、発表直前にみんなで発表順に練習している様子です。張りつめた様子が伝わってきます。

【土井の発表】おはぎ屋の中村さんについて紹介しています。緊張しましたが、参加者の様子をみていました。向かって右前に手話の方がおられます。

会場いっぱいに熱心に真剣な眼差しで発表を聴いている参加者の様子です。図書館への強い想いが伝わってくるようです。

【発表を終えて】発表した 143Ｃの部屋の前で、チーム全員で撮影しています。無事に終えた安堵感と、チームみんなでがんばったすがすがしい笑顔です。

「ジャパンセッション」事前申込者一覧

（申込み順、申込者の所属のみを書き出した。当日の参加者とは必ずしも一致していない）

バルドスタ州立大学
ポートランド州立大学
パデュー大学図書館
アーリントン公共図書館
テキサス州立大学
スミソニアン・国立アメリカ歴史博物館
タルサ・コミュニティカレッジ
アリゾナ・ウエスタン大学
RATIO 建築事務所
マウント・サン・アントニオ・カレッジ
中西部図書館サービス連合
テネシー大学
インディアナポリス公共図書館
ブルッキングス公共図書館
ニューオリンズ公共図書館
シクウォイア地域図書館システム
スタジオトロープ・デザイン事務所
ラークスパー中学校
セントマーティン大学
ノースランド公共図書館
フロリダ学術図書館サービス連合
ブルックフィールド公共図書館
アーリントン公共図書館
ヨーク郡図書館
政治社会調査大学間コンソーシアム
ラウドン郡公共図書館
サンディエゴ公共図書館
クレイグヘッド郡ジョーンズボロ公共図書館
ウィスコンシン大学パークサイド校
リビングストン公共図書館
プリティ・ダーティ・プレス
議会図書館
クリーブランド公共図書館
タウソン大学
ニューキャッスル郡行政府
ブルックリン公共図書館
フレーミングハム公共図書館
フーバー公共図書館
テネシー大学チャタヌーガ校
メリーランド大学
デンバー公共図書館
アラメダ郡図書館
フロリダ国際大学
インディアナポリス公共図書館
ハーバーフィールズ公共図書館
エバンジェル大学
セーラム公共図書館
セントタマニー教区図書館
アラバマ大学
ニューヘブン・フリー公共図書館
モーガンタウン公共図書館システム
マーティンズバーグ公共図書館
ダイサート＆ジョーンズ・アソシエーツ
トレンソン・フリー公共図書館
フェアファックス郡図書館
クラーク郡公共図書館
リッジフィールド図書館
ケント地区図書館
ロサンジェルス公共図書館
マルトノマ郡図書館
キング郡図書館システム
ジョンソン郡公共図書館
カトーバ郡図書館
ノースカロライナ州大学シャーロット校
ヒューストン公共図書館
マーカム公共図書館
アラパホ図書館
全国ろう者文芸会
ノースカロライナ大学図書館情報学
ドロシー・アリング・メモリアル図書館
議会図書館
ソルトレークシティー公共図書館友の会
アリゾナ大学
サンパウロ行政府
ロングウッド公共図書館
チェルシー公共図書館
スタンフォード大学法学図書館
イースト・ロサンジェルス・カレッジ
アリゾナ大学図書館
スミソニアン・フリーア美術館
インディアナ大学
イノックプラット・フリー図書館
米原子力規制委員会
スミソニアン図書館
フィリップ・ランドルフ・ハイスクール
アラパホー図書館
サニーベール公共図書館
ブリッジポート公共図書館
フロリダ大学図書館
サリー・コミュニティ・カレッジ
サフォーク図書館システム協同組合
レジーナ公共図書館
グレンデール公共図書館
議会図書館
アイバービル教区図書館
フィラデルフィア・フリー図書館
ブラント郡公共図書館
キーストーンアカデミー
ティッペカヌー郡公共図書館
スプリングフィールド市図書館
サンタ・クラリタ市公共図書館
アラチュア郡図書館地区
イノックプラット・フリー図書館
セントチャールス市―郡図書館地区
プリンストン公共図書館
アラパホ図書館
ニューオリンズ公共図書館
オハイオ大学
バークレー・カレッジ
ニューヨーク州立大学バッファロー校
ケント地区図書館

寄せられた主なコメント（抜粋）

発表 1：イノベーションは日本の公共図書館をどのように変えてきたか

■日本の図書館の歴史と発展のプロセスがよく説明されていた。図書館に生じている変化について、日米間で多くの類似点があることに気づいた。

−Penn Zurgable, Adult Services Librarian Cascade Township Branch Kent District Library

■貸出し重視であった日本の図書館がコミュニティに焦点を当てるようになり、それぞれの地域に合わせたサービスを展開させているのは興味深い。

−Richard Munday, Principal NEWMANARCHITECTS

■日本の図書館の概要を伝える素晴らしいイントロダクション。

−Marissa Jacobo, Santa Clara County Library

発表 2：司書が人々をつなぎ地域のハブ（要）となる図書館をめざして（岩手県 紫波町図書館）

■素晴らしいケーススタディ −n/a

■コミュニティに向けてサービスしている点が良い。

−Marissa Jacobo

■展示でコミュニティのメンバーを紹介していくプレゼンが楽しかった。真似したいアイディア。

-Heather Kitchen, Engagement Manager Metropolitan Library System

■図書館が伝統的な枠組みを超越し、経済的かつ社会福祉的な豊かさを産み出す触媒になっていることに感銘を受けた。−Richard Munday

■アメリカの田舎の図書館でモデル化するためのインスピレーションを受けた。

−Kathryn Phill, Freer I Sackler – Smithsonian

■農業地帯で働いている今日撮ったスライドの写真を同僚に見せます。−Nathaniel L

発表 3：超高齢化社会の認知症にやさしい図書館づくり（鳥取県立図書館）

■高齢者支援に私たちはもっと取り組みたい。認知症に優しい図書館づくりは興味深い。音読教室は地元のセンターでもできそうだ。−Heather Kitchen

■孤独な認知症患者を減らし、認知症そのものを改善させる手法として期待できる。−Richard Munday

■素晴らしい思いやり！他のサービスにも応用できる。−Linda Curvey-Brown Senior Librarian Rockville Memorial Library

■コミュニティとそのニーズを意識してサービスしている顕著な事例。−Marissa Jacobo

■高齢になっても自分たちのコミュニティで安心して暮らせる手助けをこの図書館ではできている。アメリカの図書館でもやるべき。−Kathryn Phill

発表 4：夢の実現を支える図書館サービス（広島市立中央図書館）

■とても良い。私たちのコミュニティでも類似したサービスを始めたい。−Nathaniel L

■このようなサービスを受けられる利用者は幸せ。こんなサービスはここにはない。

−Heather Kitchen

■素晴らしい！起業したい人や夢を実現したい人たちを助け、図書館の価値を高めている。

−Kathryn Phill

■図書館が変化していることを示す好例。−Penn Zurgable

■非常に興味深くて刺激的。−Marissa Jacobo

■すべての年齢層を図書館に繋げる素晴らしい方法。−Linda Curvey-Brown

■図書館がコミュニティに向けて何ができるかを分かりやすく示してくれた。−n/a

全体に向けたコメント

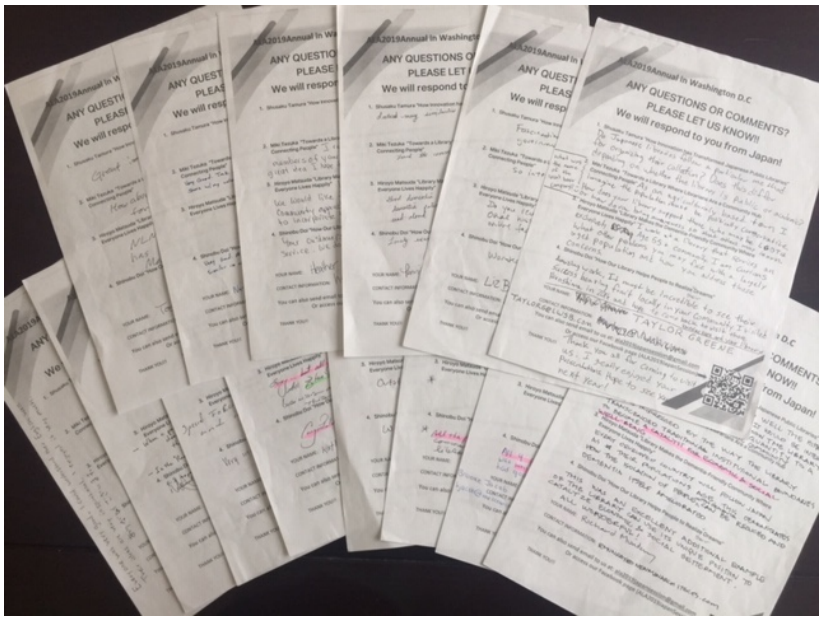
■4 つのプレゼンテーションはどれも素晴らしいものでした。どのプレゼンテーションもきちんと整理されていたため、理解しやすかったです。視覚的な情報が多かったのも良かったです。非常に多くの新しい刺激的なプログラムについて学ぶことができました。自分の図書館でも実践していきたいです。

-Brooke Jacob, Ocean County Library, Branch Manager, Berkeley Branch

■ありがとうございました！すべての発表者から非常に多くの素晴らしいアイディアをいただきました。非常に新しい視点でした。図書館とコミュニティとの密接な関係が印象的で刺激的でした。−n/a

■皆さんの発表はよく伝わっていました。どの取り組みにもアイディアがあり、とても楽しく聴けました。−n/a

■アメリカに来てくれてありがとう😊　皆さんのプレゼンを心から楽しみました。来年もお会いしたいです！ - Taylor Greene



「公共図書館をターゲットとする専門図書館のサービス」（ポスター発表）

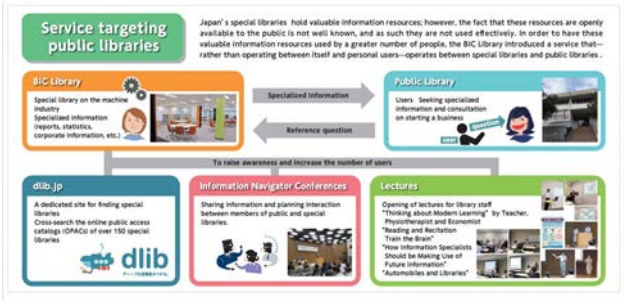
結城智里（BIC ライブラリ/ビジネス支援図書館推進協議会理事）

1．ALA のポスターセッション

ジャパンセッションの翌日の 6 月 24 日午前中、BIC ライブラリのポスター展示を行った。「公共図書館をターゲットとする専門図書館のサービス」というテーマで BIC ライブラリがこの数年間行ってきたサービスをポスターにして展示を行った。

ポスター展示は展示ホールで行われ、出展者は 90 分間各々のポスターのそばに立って通りかかった見学者に説明を行うという形をとる。

2. ポスター



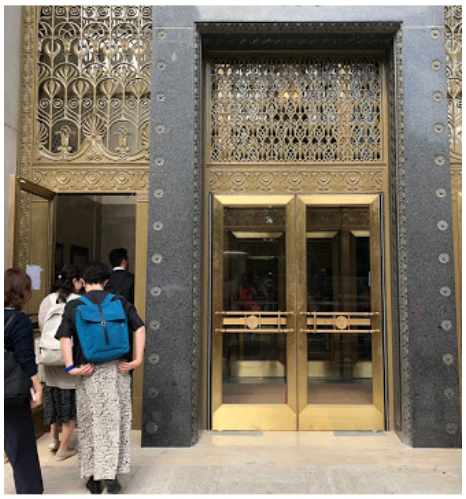
今回の発表にあたり、上記のようなポスターを作製した。BIC ライブラリの公共図書館に対するサービス、専門図書館横断検索（dlib）や開催した交流会などの取組をパネル化したものだ。

3. dlib のライブラリーナビ

また、英語版の dlib のライブラリーナビも配布した。これはしおりサイズのじゃばら折りのリーフレットである。これを手渡し、じゃばらおりになっているページをめくって実演すると、非常に興味を持ってくれるのであった。

印象に残っているのは台湾から来たにぎやかな女子大生たち、ショッキングピンクのショートヘアのライブラリアンや横須賀の海軍にいたことのある体格のいい男性、スペイン系のご夫妻などなど。あっという間に過ぎ去った 90 分であった。

視察編



ワシントン D.C.公共図書館ジョージタウン分館

豊田恭子（ビジネス支援図書館推進協議会　副理事長）

図書館基本データ

・住所：3260 R St. NW, Washington D.C. 20007
・所蔵：104 万冊（DCPL 全体 2017）
・年間貸出：28 万冊(ジョージタウン分館)
　　450 万冊（DCPL 全体 2018）
・年間来館者：14 万人(ジョージタウン分館)
　　370 万人（DCPL 全体 2018）
・職員：15 名(ジョージタウン分館)
　　535 名(DCPL 全体、IMLS による)
・ホームページ：https://www.dclibrary.org/georgetown

1．高級住宅街に佇む分館

ワシントン D.C.というと、議会図書館やスミソニアン博物館の専門図書館などに注目が集まりがちですが、しっかり公共図書館も活動しています。177 平方キロメートル(大阪府堺市や神奈川県川崎市より少し大きいくらいの面積)に、約 600 万人の人口。ここに 26 館の図書館があります。地域によって、住民の人口動態（人種、収入、教育レベル、年齢層など）にかなり違いがあるとされ、各分館は設置地域に合わせた蔵書やサービスを展開しています。

西北部に位置するジョージタウンは、歴史のある古い町で、幅広い石畳の道の両側には、緑陰に囲まれた煉瓦造りの建物が続きます。この一角には、かつてジョン F ケネディも住んでいたとか。今も、議員や政府の職員、各国の大使館関係者など、富裕層が住む高級住宅街となっています。

訪問したジョージタウン分館は、1935 年に建築された瀟洒な 2 階建て。隣には、ブックヒル（本の丘）パークと名付けられた公園が広がります。金曜日の昼下がり、落ち着いた街並みに溶け込んで、静かに佇んでいる感じでした。

2．アンティーク調の館内

館内を案内してくれたのは、ウエンデル・ケラーさん。1 階は、小説や漫画、新聞、雑誌、DVD（映画）、CD（音楽）などのセクションです。小説は基本的に作家名順に並べますが、「ミステリー」「SF」「短編」などは別コーナーとなっていました。フランス語をネイティブとする住民がいるのでしょうか、フランス語の本棚も。また日本人利用者の寄贈と思える、映画 DVD も 3 点ほどありました。

火災や水害などで、何度もリノベーションを重ねてきたそうですが、机も椅子も、こげ茶のアンティーク調家具で

統一されています。壁際には暖炉やソファもあり、高級感を醸し出しています。アメリカの公共図書館は日本と違って、入口近くにズラリと新聞・雑誌を並べたりしないので、そんなところからも、ゆったりとした雰囲気を強く感じるのかもしれません。

３．モダンな要素を取り入れたコーナー

2 階はノンフィクション、ヤングアダルト(YA)のコーナー、そして PC が並ぶスペースがありました。PC は一般用として 23 台あり、これとは別に YA コーナーにも 4 台ありました。ご多分に漏れず、図書館の中で一番混みあっているのが、この PC コーナーでした。

また 2-3 人で使える学習室も 3 室用意されていました。ここは全面ガラス張り。伝統的なトーンを保ちつつも、館内の所々でこうしたモダンな要素を取り入れていて、新旧のバランスの良さに感心しました。

屋根裏にあたる 3 階には、地域資料が保存されているということでしたが、残念ながら今回は閉室中でした。

４．　勝てば司書に水風船をぶつけられる(!?)

地下には、子供たちのフロアと集会室が 2 つありました。

夏休みが始まる時期とあって、「サマー・リーディング・プログラム」への参加を呼び掛ける大きなポスター。この夏、ライブラリアンより沢山の本を読んだ子には、夏の終わりに、ライブラリアンに水風船をぶつけることができる、という触れ込みです。壁には「競争相手」となるライブラリアン 4 人の顔写真と、彼・彼女たちが読んだ本の冊数が表示されています。その他にも、「ライブラリアンが喜ぶこと」と「悲しむこと」を書いた壁紙も。

日本語やアラビア語の絵本もあり、読み聞かせはスペイン語でもやっているということでした。

５．　年間 300 件のイベント開催

集会室は、30 人ほどが入る小さい部屋と 100 人が収容できる大会議室がありました。「催しは大好き」と言うだけあって、プログラムも多彩です。講演会、映画会、ダンスや歌、ヨガ教室やアート制作、ゲーム、外国語教室などなど。担当グループそれぞれに開催イベントの数値目標があり、全体で年間 300 件を計画・実施しているとか。アメリカの公共図書館が、貸出しよりサービスに重点を移行してきていることが、ここからも見て取れます。

またこの地域では「友の会」などのボランティア・グループの活動も活発で、読み聞かせや古本市などを主催したり手伝ったりしてくれているということでした。

ワシントン D.C.公共図書館は、ALA 大会の展示会場にもブースを出していて、来訪者に対し、この地域の案内をしていました。様ざまな国や地域からやってくる人々を温かくもてなすホスピタリティを、館内でも、館外でも感じることのできる図書館でした。

ワシントン D.C.公共図書館ウエストエンド分館

古澤理恵（熊本県大津町役場学校教育課　大津北中学校）

図書館基本データ

・住所：2301 L St. NW Washington, D.C. 20037
・所蔵：　n/a
・年間貸出：23 万冊
・年間来館者：16.6 万人
・職員：11 名
・ホームページ：www.dclibrary.org/westend

１．高級コンドミニアムの１階に位置する図書館

ワシントン D.C の北西地区に位置するこの図書館は、レンガ造りの歴史を感じさせる建物とモダンな建物が不思議と調和する落ち着いた街並みの中にありました。数年前にリノベーションを行い、現在は高級コンドミニアムの 1 階にあります。外にはカフェがあり、お茶を楽しむ人の姿も。来館者数は分館 26 館中 5 番目に多く、貸出数は真ん中位とのことでした。外も静かで、落ち着いた雰囲気の街のようです。スタッフは 11 名。情報学の学位を持つ司書が 2 人おり、企画や会議スペースの予約管理を行うアソシエイト、カウンター業務や登録作業を行うテクニカルカウンターで構成されています。

２．モダンな雰囲気の館内

館内に入ると前方に見える壁面には、地域の有名な人物の名前が描かれたデザインを見ることができます。白を基調とした館内は清潔感のある明るい印象です。目の前には予約取り置き棚があり、多忙な利用者の時間を節約していました。左手には新着図書コーナー、雑誌、フィクションの棚が続き、奥に並行してパソコンが 40 台あり、人がたくさんいました。書架を進むと勉強室があり、オーディオブックスの棚が。正面奥には児童コーナー、その奥に 100 人は入るという部屋がありました。児童コーナーの壁面には「garden party」という作品が描かれており、これはなんと鳥獣人物戯画がモチーフだそうです。2 階にはスタッフの作業場がありました。また、州の方針で性別問わず使うことができるお手洗いが 1 か所提供されていました。

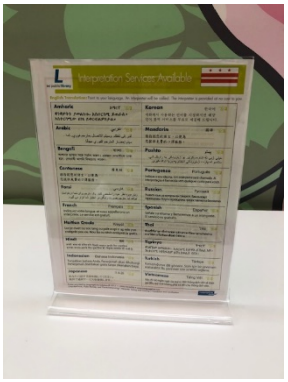
３．利用層とサービス

利用が多いのは、小さい子供連れ、若いカップル、高齢者。逆に 13 歳～19 歳のティーンエイジャーは利用が少ないそう。上流階級の方、成功した人が多い街だそうです。

ホームレスの方、障がいを持った方、英語が話せない方などハンディキャップを持つ方にも図書館を自由に使っていただけるよう、オンサイトでカウンセリングを行っています。障がいを持つ方へ必要な情報を提供できるよう、

物流やスタッフのサポートを行っているとのこと。また、2 ブロックほど離れたところに「Center for Accessibility」という障がいを持つ方向けの図書館があり、必要に応じてそちらもご案内しているそうです。英語が全く話せない人にもサービスを提供するため、ホットラインのような感じで様々な言語を話すスタッフが対応するサービスも行われていました。案内を見ると、20 ヵ国の言語が対象のようでした。もちろん日本語もありました。カードを持っていない人も 15 分間はパソコンが利用でき、プリンタも利用できるそうです。

学校との連携に関しては、学校に図書館があるからかあまり利用はないようです。学校の図書館員が元こちらの図書館員だそうで、小学校へ出向き小学校へのサービスを紹介したりはしていますが、連携は密ではないと仰っていました。若い人は多忙で、図書館の中で過ごす時間は少なく、オンラインで予約した資料を入り口すぐの棚から広い、自動貸出機で貸出して出ていく方が多いそうです。



４．多彩なプログラム

プログラムはライブラリアンが計画・実行しています。最近は高齢者向けのプログラムを作ることに注力しているそうです。現在行われているのはエクササイズクラス、文学のプログラム、哲学のディスカッション、料理本のディスカッション、ブッククラブ、映画や美術関連のプログラム、シェイクスピアのプログラム、スペイン語のバイリンガルのプログラムなど。また、ボールプールの中に本を入れ、子どもたちが探すという、日本ではちょっと思いつかないようなアクティビティも行われています。また、子どもたち向けのサマーチャレンジとして、「Read20」というプログラムが行われていました。これは、6 月から 8 月まで、毎日 20 分読もう、というもの。年齢ごとにミッションが異なるようで、5 歳児さん向けのパンフレットを見ると、本を読むだけでなく、読み聞かせに参加する、お風呂で歌う、名前を書く練習をする、お散歩に行って何を見たか話すなどの条件の中から 1 つを選んで 20 分実行しようというもののようです。各月達成するごとに本や T シャツなどがもらえるそう。その他にも、LGBTQ についてのストーリータイムや著者の講演会なども行われています。最近よく聞かれるドラッグクウィーンによるストーリータイムは、館内では行っていないが昨年コミュニティーセンターで図書館もパートナーとなり行ったそうです。また、見学した日の晩に図書館員向けのイベントとして開催すると教えてくれました。次のステップとして、コミュニティーとパートナーシップを組んで、自己学習のためのアクティビティを行いたいし、オンラインコンテンツの提供も考えたいと仰っていました。

５．図書館が大切にしていること

図書館が大切にしていることは、「アクセス」だそうです。経済的な理由やハンディキャップのために情報にアクセスできないことがないように、アクセスを重視しているとのこと。また、バックグラウンドを問わず公平にサービスを行うこと、誰にでもウェルカムの姿勢でオープンであることを大事にしていると言われていました。

そこに住む人たちの年齢や層に応じて、教育・情報提供・ディスカッションの場と様々なサービスの提供がプログラムやアクティビティなどを通して行われているウエストエンド分館。住民の声を聞きながら改善を続けたいという言葉が心に残る、チャレンジし続ける図書館でした。

イーノック・プラット公共図書館

嶋田　学（奈良大学　文学部　司書課程）

図書館基本データ

・住所：400 Cathedral St. Baltimore, MD 21201
・所蔵：約 200 万点（分館含む）
・年間貸出：119 万冊（分館含む）
・年間来館者：50 万人以上　（中央図書館のみ）
　　170 万人（分館含む）
・職員：400 人（分館含む）
・ホームページ：https://www.prattlibrary.org/

1．アメリカでも最も古い図書館のひとつ

1882 年イーノック ・ プラットにより設立されたイーノック・プラット公共図書館は、現在、中央図書館をふくむ 21 の館のほか、Bookmobile、Book Buggy、Mobile Job Center の 3 つのモバイル・ライブラリー・サービスを展開しています。

私たちが訪問した 2019 年 6 月は、図書館の大規模なリノベーション工事が開館しながら続いていました。約 190 億円を投じて行われているその工事は、利用者の学習、研究、創造、市民参加の機会を増やすために、最先端の設備に改修するものでした。歴史的建造物と言っていい風格のある内観に上手くフィットする筐体を工夫して、Web パソコンが所々に設置されていたのが印象的でした。このリニューアルでは、新たにクリエイティブ ・ ラーニングのための“Creation Stations”ができるほか、“New Teen and Young Adult wing”の設置や児童部門の拡大などが行われ、機材の面では PC 台数を 3 倍にし、最新の視聴覚機器を入れる計画です。（視察事前資料による）

イーノック・プラット公共図書館（中央図書館）
photo by nf utvol /CC BYSA 4.0

イーノック・プラット公共図書館は、メリーランド州のリソースセンターも兼ねており、中央図書館のチーフも兼

務するウェズリー・ウイルソン(Wesley Wilson)さんは、この図書館のミッションは「万人にひらかれた図書館です、誰にでも利用カードを発行しています」と、穏やかに語ってくれました。

利用者の来館動機は、①インターネットへのアクセス、②印刷図書の利用、③図書館が企画するトレーニング、およびサポートプログラムの利用、④AV コレクションなどのエンターテイメント利用ということです。

２．社会の変化に対応する図書館プログラム

図書館が企画するプログラムには、就職支援や中小企業支援、マイクロビジネスの支援などがあり、この中央館のサポートプログラムにより、就職につながったり、マイクロビジネスが、スモールビジネスまでレベルアップしたりといった成果が上がっています。

これらのプログラムは、メリーランド州の就労省、全米中小企業協会とのパートナーシップにより運営されているとのことでした。

就労支援には、地域内を移動する「Mobile Job Center」というサービスがあり、12 台の PC ステーションが備えられており、PC の使い方や履歴書の書き方、面接の練習など、就職に必要な基本的なスキルのサポートを受けることが出来ます。他にも、メリーランド大学との連携で、ソーシャルワーカーを育成するプログラムとして図書館がインターンシップの受け入れをしていたり、

“Lawyer in the Library”というプログラムでは、

サービス部門、サービスプログラムごとの紹介パンフレット

弁護士が「プロボノ」として図書館での相談サービスや課題解決に協力しています。例えば、犯罪履歴を消す手続きの支援や、刑務所に服役していたキャリアブレイクをどう表現するか、などの相談にも応じているとのことです。

図書館では、こうしたプログラムを必要とする人々と積極的なレファレンスサービスやサジェスチョンによって接点を作り、州の関係機関にサービスを「プロバイド」(つなぐ)していると説明してくれました。

これらの様々なプログラムは、地域に生きる人々が現代社会で自立するために必要な知識やスキル、あるいは障害を取り除くために、ありとあらゆる視点から企画されています。それは、市民のストレスは多様化しており、単に資料や情報の提供だけでは、人々が必要としている支援とはならないからだと言います。

その他、サービスの 3 つの柱として、①公衆衛生、②リテラシー支援、③GED(General Educational Deve – lopment test)《高等学校卒業程度認定試験》支援に力を入れています。

３．図書館は人々とコミュニティをエンパワーする触媒

Strategic Plan 2017 - 2019（戦略計画 2017-2019）では、Dynamic Service、Technology、Collaboration & Community Partnerships の 3 つの項目を立てています。これらの指針はいずれも、図書館が住民のニーズに応えるため積極的な関与を進めていくために掲げられたものです。これまで紹介してきたように、住民の生活上必要な支援を企画し提供する姿勢は、図書館がコミュニティにとって必要不可欠なのだという、図書館側の強い確信から生まれているものだと実感しました。そのために必要な資金を生み出し、そして効果的に活用することに、イーノック・プラット図書館のスタッフは最大限の努力を払っています。例えば資金の重要な要素である寄附を募るファンディングレイジングの担当者をおき、個人や団体からのドネーションを図る取り組みがなされています。

また、利用者のニーズが高いデータベースの利用料を

抑制するために、いくつかの図書館とコンソーシアムを編成し、価格交渉を行っています。

ENOCH PRATT free LIBRARY

Donor Roll Call

We gratefully acknowledge our donors for their generous Fiscal Year 2018 Annual Fund Support.. Gifts July 1, 2017 through June 30, 2018

PRATT SOCIETY DONORS

$100,000 OR MORE

BGE
Exelon
Mr. Robert L. Meyerhoff and Ms. Rhoda Becker
Southeast Community Development Corporation
State of Maryland Department of Housing and Community Development
T. Rowe Price Foundation, Inc.
The Harry and Jeanette Weinberg Foundation

$50,000–$99,999

Clayton Baker Trust
The Helena Foundation
Lockhart Vaughan Foundation, Inc.
Saul Zaentz Charitable Foundation

$25,000–$49,999

The William G. Baker, Jr. Memorial Fund
Sandra and Malcolm Berman
The Jacob and Hilda Blaustein Foundation, Inc.
Mr. Edward S. Delaplaine, II, and Mr. Todd M. Wilson
Ms. Nancy L. Dorman and Mr. Stanley Mazaroff
Gilbane Building Company
The David and Barbara B.

また、来館者への働きかけで大変過感心したことがありました。レファレンス担当の図書館員は、固定されたカウンターで利用者からの相談を待つのではなく、利用者が相談や調査の援助を必要としている様子を伺いながら、可動式の PC デスクで館内を移動するというのです。

可動式の PC デスクで利用者の動向を見守るライブラリアン

このようなスタッフのモチベーションは、どのようにマネジメントされているのか質問をしてみるとこんな答えが返ってきました。図書館の休館日に「スタッフデベロップメントデー」という日を設けて、様々な研修や職員の顕彰を行っている。勤続年数を積み重ねたスタッフ、大きな貢献をしたと認められるスタッフの表彰。図書館に特に関わらない研究会や団体の大会、総会への参加費援助なども行っているとのことでした。

4．伝統的な建築物での繊細かつ大胆なリノベーション

風格のある伝統的な建築の中に、最新の ICT 機器や、新たな機能を果たす居室を内観の調和を保ちつつ、大胆に施しているところに、不易流行と言っていい果敢なチャレンジを感じました。例えば、ミーティングルームのような居室を館内のいくつかの場所に違和感なく設置していたり、建物にマッチした色合いながらもスタイリッシュなデザインのベンチをメインホールにセットしていたりしました。

少人数でのミーティングやセミナーが行える居室

イーノック・プラット図書館は、全米でもティーンズサービスの展開が早かった図書館で、今回のリノベーションでも 2 階の三分の一のフロアをティーンズエリアとして改修をしています。そこには「クリエーティブスペース」や「メーカーズスペース」などが作られ、ティーンズが資料、情報によるインプットだけでなく、様々な機器を使ってのアウトプットも支援することが目指されています。また、AV コレクションの提供だけでなく録音スタジオやティーンズリーダーシッププログラムのような人材育成の要素なども考慮されています。これはひとえに青少年世代の様々な格差を是正し、地域で孤立しない包摂的サービスをティーンズにおいても重視しているからだといいます。

紙幅の関係で書ききれませんが、イーノック・プラット図書館の随所から、そしてスタッフの言葉や表情から、図書館というものが市民に何をするところなのかということを学ばせて頂きました。

ボルチモア郡公共図書館

豊田恭子（ビジネス支援図書館推進協議会　副理事長）

図書館基本データ

・住所：320 York Road Towson, MD 21204 (本部)
　855 Sulphur Spring Rd Arbutus, Maryland 21227
　（アービュートス分館）
・所蔵：180 万冊
・年間貸出：1023 万 660 冊
・年間来館者：455 万 2413 人
・職員：483 人
・ホームページ：https://www.bcpl.info

１．「本館」をもたず、19 の分館ネットワークで活動

ボルチモア郡は、メリーランド州に 23 ある郡のひとつです。混乱しがちなのですが、「ボルチモア市」は「ボルチモア郡」には属さず、独立した行政機構をもっています（ちょうど日本の政令指定都市のような感じです）。そのため「ボルチモア郡」は、ちょうど「ボルチモア市」の東―北―西の周囲を取り囲むような感じで位置しており、行政地図を見ると、南部に位置する「ボルチモア市」の部分がすっぽりと抜けたような形になっています。

「ボルチモア市」が 230 平方キロの面積に人口 65 万人なのに対し、「ボルチモア郡」はその 8 倍の面積(約 1800 平方キロ、香川県と同じくらい)に 82 万人の人口を抱えています（ちなみに香川県は 96 万人、いい勝負ですね）。

今回訪れたのは、ボルチモア郡のアービュートスという町にある分館です。高速を降りて森林の中を少し走ると、丘の上にポツンと、まるでロッジのような趣で建っていました。イーノック・プラットの荘厳な図書館とは対照的に、いかにも地元に根差した一分館という感じでした。

聞けばボルチモア郡公共図書館には「本館」「中央館」というものはおかず、19 の分館のみという話でした。「本部(administrative office)は、郡庁のあるタウソンの街に置かれているそうです。

２．子供を自由にさせ、大人を囲い込む

まず始めに、この分館のマネジャー、ボブ・マラントさんが館内ツアーをしてくれました。

広さは 4000 平方メートルはあるでしょうか。フラットなワンフロアが目前に広がります。

中央に大きな楕円形のカウンターを置き、そこで貸出しとレファレンス。その横に PC の並んだ机がズラリと並びます。そうして広大なフロアを子供、中高生、大人といったゾーンに緩やかに分割しているのですが、基本的には同じフロアを共有していますから、行き来も自由だし、声も届きます。

むしろ静かにしたい人のためのエリアを囲い込み、そこ

に新聞・雑誌をおいていました（といっても全面ガラス張りなので中は丸見えで、しかもドアは開け放したままでした)。子供たちを自由にさせて、大人を部屋に入れる、というコンセプトに新鮮味を感じました。

子供たちのエリアには、絵本の他に積み木やすごろくなどの遊び道具、子供用の PC が並んでいます。本に加えて、DVD ゲームなども貸し出しているということでした。

中高生のエリアにも、ティーンたちのための本、PC、音楽 CD といったものが並んでいました。また大人のエリアでは、テーマ別の棚が置かれていました。

面白かったのは、ドライブスルーの貸出し窓口があったことです。住民が車に乗ったまま、本を返したり、予約本を受け取ったりできるようにしているということでした。車で来訪する利用客が多いということなのでしょう。

またパスポート取得のための写真を撮るブースが、フロアの一角に置かれていました。通常は郵便局にあるらしいのですが（申請書は郵送で送るので)、図書館では写真を撮るだけでなく、パスポート取得申請書の書き方も教えるため、これまで図書館を使ったことのない利用者の取り込みに成功しているということでした。

３．現在ではなく、将来必要なものを提供する施設

集会室では、なんと 8 人もの職員が私たちを迎えてくれました！

まずポーラ・ミラー館長が、ボルチモア郡公共図書館（以下、BCPL と略します）の戦略について詳しい説明をしてくれました。

ミラーさんは 2015 年、7 人の評議員（トラスティと呼ばれる市民の代表です）に選ばれ、その後、郡議会の採択を経て、館長になったそうです。

打ち立てた図書館の新ビジョンはこうです。

「20 世紀の図書館は、個々人がその時に求める本や情報を与えてきました。でも 21 世紀の図書館は、地域が今後、必要としていくもの―教育や経済や公平性や協調性など―を提供する施設となります」、「そのためには、連携や、柔軟性、不断の変化が求められます」。そして BCPL は、「戦略的な優先順位づけによって地域と歩調を合わせ、単なる運営体から、変革を促すエージェントになるのです」。

小柄な体からは想像もつかないほど力強く、明快で印象的なスピーチでした。

BCPL の年間予算は 43 百万ドル。うち 82%がボルチモア郡から、12%がメリーランド州から、残り 6%が「友の会」などからの寄附と本の延滞金となっています。

運営指標としては、貸出や来館者数、プログラムの実施数といった定量評価だけでなく、図書館の影響力を証明するようなストーリーを多く集めるようにしているということでした。

４．リノベーションの推進、新ロゴの決定

次にジェームズ・クックさんが、最近行なったリノベーションの事例として、ヘレホード分館とランダスルストーン分館の写真を見せてくれました。

BCPL は平均築 46 年と古い建物が多く、それをいかに予算化し、順次、改築していくかが課題だそうです。

最近のリノベーションのポイントとしては、コラボレーションスペースの拡大、音楽・美術・著作といった活動ス

ペースの確保、人々がリラックスできる場所の提供などがあるといいます。また歴史的資料の電子化を進め、蔵書を5%減らしたということでした。

リンンダ・フレデリックさんからは、マーケティング戦略の紹介がありました。

2017 年、BCPL はすべてのブランドマークの見直しを行ない、本が開いた形を思わせる「B」をかたどった新ロゴを決定。19 の分館すべてのサインや印刷物の見直しを行なったそうです。ロゴの決定にあたっては、親しみやすく、人々を歓迎する雰囲気を出したかったとのこと。ロゴを印刷した T シャツや、バッグは、図書館で販売もしています。

５．多彩なプログラムとアウトリーチ活動

ナタリー・エディントンさん、フィリス・ボントラジャーさん、ジュリー・ブロフィさんたちからは、様ざまなアウトリーチ活動やコミュニティ活動が紹介されました。

0 歳から 17 歳までの子供たちを、いかに図書館に取り込むかが課題だといいます。例えば本を読まない男の子たちへのアプローチとしては、月に 3 回、理髪店を回ります。そこで髪をカットしている間が、ストーリー4 タイムになるのです。

また学校の授業が終わった後は、生徒にそのまま図書館に来てもらい、宿題の手伝いをしたり、ゲーム教室や写真教室を開いたりします。学校のない夏休み期間には、フリーランチを提供したり、プログラムに参加した児童に T シャツをプレゼントしたり、まさにあの手この手で図書館に呼び寄せます。本についてのクイズ大会もあるそうです。

もちろん大人向けサービスも充実しています。起業支援、税金相談、退職後の暮らしを豊かにするためのプログラムの数々が試みられています。

ボルチモア郡には、図書館のない 15 の地域が存在するため、そこには 4 台のブックモービル(BM)が回っています。本だけでなく、コンピュータやゲームなども載せていき、地域のコミュニティづくりを支援しています。また大人向け BM も 2 台あるそうで、介護施設や老人ホームを訪問しているそうです。

その他にも、多くの子供向け、大人向けの、アートや音楽やコンピュータを使った多彩なプログラムが紹介されたのですが、残念ながら、とてもすべてをここに書くことができません。

活動があまりに多岐で、しかもそれぞれが面白く、3 時間はあっという間。「えー、まだまだ質問したいことがいっぱいあるのに！」と後ろ髪を引かれながら発ち去ることになりました。

しっかりしたビジョンと、それに沿った戦略、地域に根付いた細やかなサービスの数々。BCPL の組織力の高さ、総合力の強さをまざまざと見せつけられた訪問でした。

米国議会図書館

豊田高広（フルライトスペース株式会社）

図書館基本データ

・住所：101 Independence Avenue, SE Washington DC
・所蔵：1 億 6,829 万点（2018）
・年間貸出：96 万点(2018)
・年間来館者：190 万人(2018)
・職員：3,096 人
・ホームページ：https://www.loc.gov/

１．世界最大級の国立図書館

米国議会図書館（The Library of Congress：以下、“LC”）は、世界最大級の国立図書館として、議会、一般市民、その他の連邦政府機関や図書館・学校その他の組織からの年間 100 万件を超えるレファレンス要請に対応しています。また、納本された出版物の著作権登録は年間 40 万件以上に及びます。

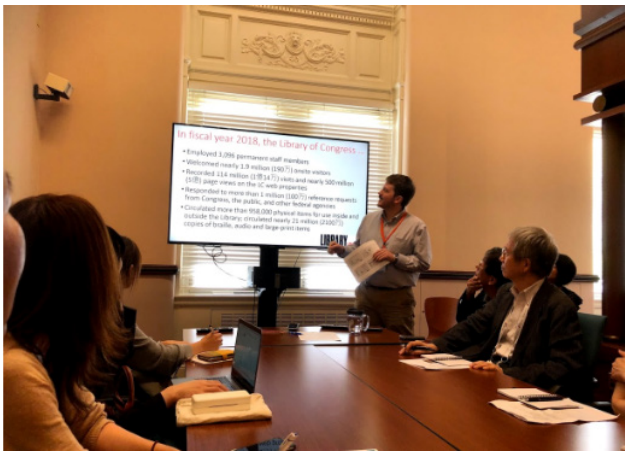
そのコレクションには、写真・地図・ポスター等、冊子の形を取らない紙の媒体はもちろん、膨大な音声及び映像の資料や、日本人の常識では博物館の収集対象と思われるような収蔵品も含まれます。また、図書・逐次刊行物に限っても、その半分以上が、英語以外の言語（470 言語と 35 種類の文字表記！）で書かれたものなのです。

1 世紀以上前に当時の LC の館長ハーバート・パットナムが指摘した、「使用される本は、単に保存される本よりも高い目的を果たしている。」という視点は、現在の運営においても徹底しています。LC は、そのコレクションの利用を促し、あるいは実際に活用する、実に多様かつ豊富なサービスとプログラムを提供しています。特に、デジタル化とその成果の公開は、世界一のボリュームを誇る図書館のコンテンツを世界に届ける事業として、日本に住む私たちも無関心ではいられません。そこには、日本に関する膨大なコレクションも含まれています。たとえば、検閲の対象となった日本の出版物のコレクション（Japanese Censorship Collection）や、幕末の日本を訪れたアメリカ人の絵入り日記（William Speiden Journals）を、LC のウェブサイトで日本にいながら閲覧することができるのです。

２．アジア部の活動

訪問当日、LC の概要と、日本語をはじめアジア諸言語の資料を扱うアジア部（Asian Division）の活動については、アジア部の日本語参考調査担当司書（Japanese reference librarian）のキャメロン・ペンウェル（Cameron Penwell）さんから、流暢な日本語で説明していただきました。LC の概要については、既に書きましたので、ここ

からは、アジア部について記すことにしましょう。



アジアン・コレクション（Asian Collections）へのアクセスポイントとなるのが、アジア閲覧室（Asian Reading Room）です。アジア部のオフィスは、この閲覧室と隣り合うように置かれています。中国語、日本語、コリア語、モンゴル語、チベット語及びその他の南アジアや東南アジアの言語の資料を扱っています。長い間、日本語の資料が一番多かったのですが、この十数年の間に、中国語資料の数が上回るようになりました。保存のために特別の処理が必要な古典籍も多く、保存管理局（the Preservation Directorate）と協力して実施しています。

参考調査担当司書（reference librarians）は、その仕事の一環として、選書も行なっています。アジア部であれば、通常の人文科学系の研究図書館のコレクションとそう変わらない視点で行なっているそうですが、他方でアメリカの議会にとって重要なトピックや、研究者にとって重要になりそうなトピックも選んで、重点的に収集しています。東日本大震災の時も、関連する資料収集をかなり力を入れて行いました。デジタル・コレクションの場合も、ウェブ上の漫画のコレクションから、東南アジアの選挙に関するコレクションまで、さまざまな分野にわたっています。

アジア部と議会の調査部門が直接かかわることは、現在はほとんどありません。コレクションの構築にああっても、必ずしも議会のニーズを細かく意識することなく収集をしているようです。

日本語資料のうち、地図については、国内のもの以外に、日本軍が海外で作成した地図が数千枚の単位で存在するということでした。検閲に関するコレクションや、絵入り日記のコレクションと同様、あるいはそれ以上に、その重要性にもかかわらず、残りにくく、集めにくい資料といえるのではないでしょうか。LC の底力を感じずにはいられない取り組みです。

３．博物館のような図書館

アジア部のペンウェルさん以外に、日本出身の二人の司書と会うことができ、広大な図書館内を案内していただきました。実は、議会図書館は 3 つの建物からなります。今回見学したのは、その中心的存在であるトーマス・ジェファーソン館です。1897 年に開館した同館は、二重の意味で、博物館のような図書館といえるでしょう。

まず、建物自体が、同館の日本語解説書にある言葉を借りれば、「学問、文学、知識、想像力、そして知的成就というテーマに関連」した美術装飾に覆われたギャラリーとなっています。同館が建てられた当時の、図書館という知の象徴的な存在に対する人々の思いが、美的に表現された建物なのです。大ホールのあたりには 15 世紀にドイツで作成された手書きの「マインツの大聖書」と活版印刷の「グーテンベルク聖書」が展示され、美術装飾とともに、この図書館がどのような意味をもつ場であるかを、力強く主張しているように感じられました。

次に、同館内のギャラリーが、アメリカの歴史を彩るさまざまなモノたちを展示し、直接、感じ取ることができる場となっていることを指摘したいと思います。私たちが訪れたときには、二つのテーマで展示が行われていました。

一つは野球を通じてアメリカの歴史を振り返る展示、もうひとつは女性の参政権獲得の闘いをめぐる展示でした。どちらの会場にも、写真等のパネルや図書以外に、さまざまな実物によるディスプレイが工夫され、大いに興味を惹きつけられました。それぞれのテーマについて、両面に印刷を施して折り畳まれ、広げればポスターにもなるパンフレットが作られ、無料で配布されていました。これらも思わず持ち帰って読みたくなる、絶妙な造りでした。

４．おわりに

公共図書館のあり方からその設置された自治体が見えてくるように、LC のあり方から、米国というものが見えてくるという面は確かにあるのだな、と思いました。それは、たとえば、英語の資料と同じくらいの数の、英語以外の資料があるといったことです。そこから、米国の世界に対する姿勢が見えるように思えます。また、議会にとってのニーズにこだわらない資料収集の姿勢からも、知の世界に対する政治の距離感のようなものが見えたような気がします。一言で表現すれば、米国のソフトパワーの凄みが表現された場、ということでしょうか。それをただの権威的な場に終わらせず、デジタルの力も活用して、「使用される本」という 1 世紀以上前から続く理想を徹底的に追求しているのも、LC の凄さであるわけです。今回は、世界最大級の図書館の、ほんとうに限られた一面をチラリと見たにすぎないのですが、それでも公共図書館の見学とは異なる大きな刺激を受けました。

スミソニアン博物館群フリーアサックラーギャラリー図書館

結城智里（BIC ライブラリ/ビジネス支援図書館推進協議会理事）

図書館基本データ

・住所：1050 Independence Ave SW, Washington DC 20560
・所蔵：8 万 6000 冊
・年間貸出： n/a
・年間来館者： n/a
・職員：4 名
・ホームページ：
https://www.freersackler.si.edu/research/library/

１．スミソニアンの図書館の 1/21

スミソニアン博物館を訪れたのは最終日の午後。ご存知の方も多いかもしれませんが、スミソニアン博物館は一つの建物ではありません。ワシントン D.C.の中心部のナショナルモールに、アメリカの歴史、文化、生物、宇宙、科学技術など様々なテーマの 19 の博物館と研究施設が点在する博物館群です。すべての博物館の入館料は無料ですが、入館の際には荷物チェックがあり、強面でレスラーのような係員（男女とも）が入り口付近に立っています。

このスミソニアン博物館群には 21 の専門図書館があるということですが、メインライブラリーという位置づけの図書館はありません。私たちは 21 館の一つ、フリーアサックラーギャラリーの図書館を訪問しました。フリーア美術館とサックラーギャラリーは独立した館ですが、地下でつながっており、収蔵品も日本や、インド、中国などのアジアの美術品であること、学芸員も共通であることから、フリーアサックラーギャラリーという統一された呼称を用いることがあり、ホームページも共通ということです。図書館も両館共通です。

アジアの芸術品を収集し、展示している両美術館の図書館ですから、フリーアサックラーギャラリー図書館においても、日本、中国、インドなどの美術、考古学の資料を収集しています。図書館は一般の人も予約なしに利用することができます。「アメリカの国民に美術品を見せる」「美術品は国民の物であるから」というフリーアの意思に基づいて運営されているのです。

２．アジアの芸術に関する蔵書.

図書館はサックラーギャラリー内にあり、書架と端末のある閲覧スペースを中心にして、その両側がアーカイブの部屋と書庫になっています。閲覧スペースと書庫は日本人の主任司書 Yoshimura さんに案内していただきました。

日本、中国、インドなどの美術、考古学関係の蔵書数は約 10 万冊です。（※公式サイトの表記は 8 万 6 千冊）その半分ほどがアジア言語で書かれたもので、言語別に配架されています。本、雑誌のほか、美術展の図録などもあり、

日本の国立新美術館から受け入れた図録もあるそうです。また中国の資料の中には文化大革命を逃れた貴重な資料もあるのです。これら紙の資料はデジタル化が進められており、web で公開されています。研究者は web で必要とする資料についてあらかじめ予習し、来館して現物にあたる、というケースが多いということです。

３．アジア関係のアーカイブコレクション

フリーアサックラーギャラリー図書館は書籍資料だけでなく、写真や原稿も多数所蔵しています。

その中から、日本に関わる写真などの現物をいくつか、見せていただきました。貴重な写真ですから見せてもらう私たちもちょっと緊張気味になり、おそるおそる「写真を撮っても大丈夫ですか？」と尋ねました。すると、かえってきた答えは拍子抜けするほど簡単な「どうぞ、ご自由に」という調子のものでした。

セピアがかった明治時代の日本の商店や、金閣寺などの建物の写真や様々な人物の写真もありました。セオドア・ルーズベルト大統領の娘アリスがアジアを訪問した際に日本で手に入れた写真、中国の女帝の写真など興味深いものがたくさんあります。

写真のほかに論文や手紙、手帳まで保存されています。こういったものは美術館にアートが寄贈された際に、その品にまつわる話や物として図書館に寄贈されるものだったりします。寄贈の際には本人や家族から綿密なヒアリングが行われるようです。

コレクションの利用例として「ヤツハシハルミチ」のコレクションをひ孫の方が、ドキュメンタリーを作る際にこの図書館にやってきて調べたという話がありました。

後に図書館のサイトで調べてみると、移民で古美術の会社に勤めたのちに独立して美術商となった八橋春道という人のコレクションだとわかりました。

これらの貴重なコレクションもデジタル化が進められています。

膨大なコレクションをデジタル化する順番をどのように決めていくのか、興味があったので聞いてもらうと、「劣化の度合いを考慮する」そして「リクエスト数が多い物から」ということでした。

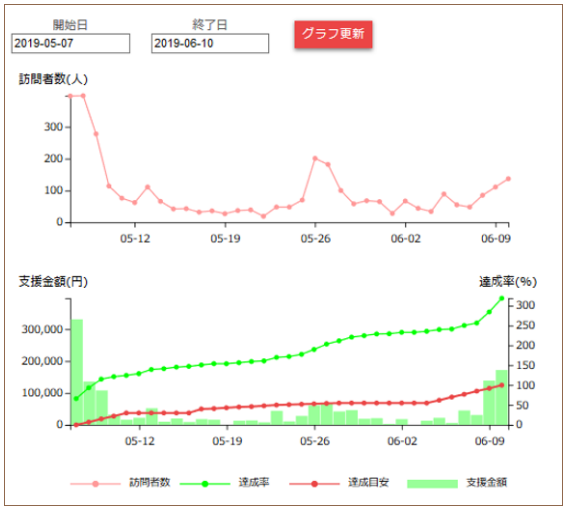
現物を保存する際に困難なことも多々あって、たとえば中性紙に記録されている物であっても酸性紙に貼られている場合は、台紙からはがして中性紙に貼りなおす必要があり、場合によっては元の紙に描かれている物を描きうつさなければならないこともあるそうです。

この訪問で印象に残ったのは、あたりまえのように着々とすすめられているデジタル化と、書籍についてもアーカイブについても、またデジタル化されているものも現物も、利用者に対し広く開かれているということです。

クラウドファンディング編

経過報告および会計報告

今回の事業を推進するにあたっては、資金不足を補うために、Readyfor が主宰するクラウドファンディングに挑戦することにした。同社からは、「事前の広報活動をしっかりと行ない、ファンディング自体は 1 カ月くらいで集中して行なったほうが効果的である」というアドバイスを受けた。そこで 3 月に「ALA2019 ジャパンセッション準備委員会」のフェイスブックをまず立ち上げ、そこで ALA についての説明、ビジネス支援図書館推進協議会としてのこれまでの活動などを周知。またフォロワーを増やすために、アメリカを始めとした海外の図書館情報を積極的に配信。折からの「ニューヨーク公共図書館　エクス・リブリス」の映画情報や関連イベントも大いに活用させてもらった。図書館総合展実行委員会のメルマガには、繰り返し掲載してもらい、それをフェイスブックにも反映させた。関係者総出で情報拡散に努力したおかげで、ファンディング立ち上げまでに 500 人のフォロワーを獲得することができた。



ファンディングは 5 月 7 日から 6 月 10 日まで実施した。事前の広報活動が功を奏して、立ち上げ 48 時間後には第一目標だった 50 万円を達成。5 月 26 日の「情報ナビゲータ交流会」後には 100 万円を超え、最終的には 160 万円を集めることに成功した。

いただいた「応援コメント」は 243 件に上った。発表者やその図書館を知っているので応援したい、という声も多かったが、このプロジェクトの理念に賛同し、これを日本の図書館全体の発展つなげて欲しい、という見知らぬ人からの声援も少なくなかった。予想をはるかに超える支援者の数と寄付額は、私たちにこのプロジェクトの意義を再確認させ、必ず成功させようという決意を新たにする力をくれた。

当初は、クラウドファンディングで調達した資金はほぼすべて発表者の渡航費補助にあて、残りは自己負担やボランティアの力で賄う計画であった。しかし予想以上の資金が集まったことで、英訳者に最低限の支払いをしたり、報告書や DVD の製作費に資金を回したりすることが可能となった。

クラウドファンディングの協力者には、全員に「報告書」を配布し、5000 円以上の寄付者には、1 割程度の返礼品（米国議会図書館グッズ）を用意した。また 3 万円の寄付者のうち 4 件は「報告書」への広告掲載を希望したため、そのようにしている。

	入金	出金
クラウドファンディング達成額*	1,603,000	
Readyforへの手数料		292,474
発表者4名への渡航費補助		400,000
ALA年次大会参加費(5名分)		82,555
英訳などの発表準備費用		96,640
関係者への返礼品		17,822
ビデオ機器レンタル+SDカード代		17,476
リターングッズの購入費		140,634
リターングッズの郵送料**		74,100
報告書制作・印刷費		170,000
DVD製作費		120,000
報告会開催費（横浜への交通費等）		194,000
合計額*	1,603,000	1,605,701
*直接、事務局に手渡された寄附を含む		
推定値、*差額は、BL協議会の事業費より補填		

クラウドファンディング協力者一覧

（申込み順、氏名掲載の許可のあった人のみ）

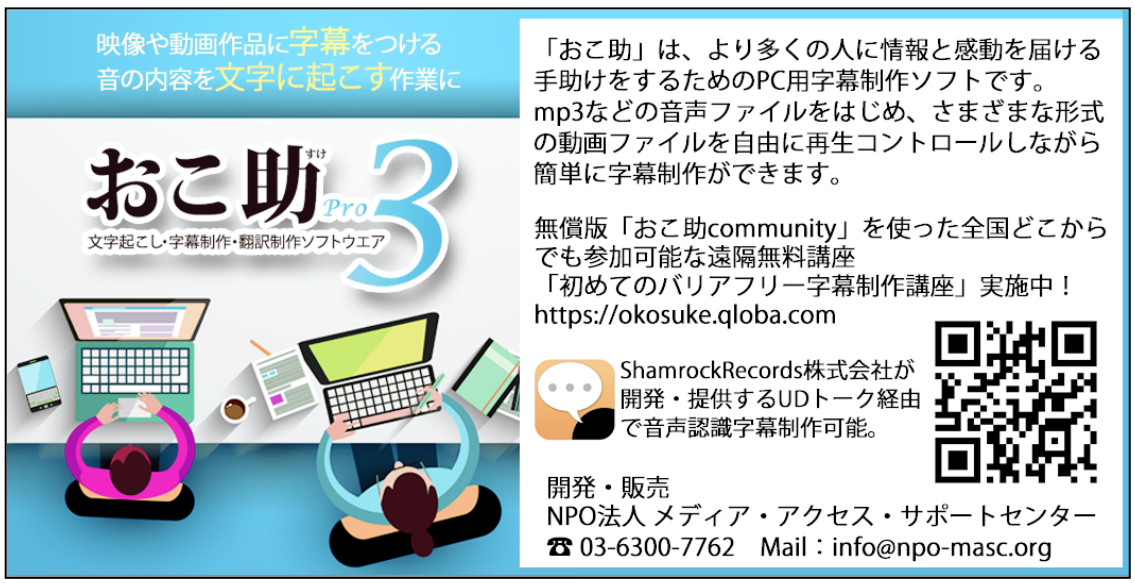
竹内 利明　島津 芳枝　日向 良和　広瀬 容子
島根県立大学松江キャンパス図書館　齊藤 誠一　Kud Tak
株式会社アフタヌーンソサエティ　末次 健太郎　BOO BOO
NPO メディア・アクセス・サポートセンター

嶋田 学　岡本 真　Naoto Ito　小林 隆志　新谷 良文　三浦 なつみ
藤坂 康司　カトウ シンヤ　結城 智里　M Koshizuka　高橋 真太郎　ぐうたらぶんこ
島津 英昌　今井 つかさ　茂出木 理子　吉場 千絵　よっちゃんぴよこ　いのうえ
Akiko Fujii　大石 美和子　天野 良枝　竹内 昌義　石川 浩一　椛本 世志美
石橋 豊之　縄田 早苗　土井ファイト！　fumi　前田 小藻　有山 裕美子
Rin　遠藤 恭代　武藤 祥子　永井 伸和　Iikawa　大林 正智
三浦 丈典　荻原 幸子

荒木 美咲　原田 洋子　高橋 正名　加藤 晃一　二角 貴博　齋藤 明彦
天野 奈緒也　和知 剛　野末 俊比古　復興まちづくり チーム郡山　松下 大介
安形 麻理　山猫館　石部 雄紀　子安 伸枝　小澤 多美子　小林 純子
樋本 有希　曽木 聡子　祖父江 陽子　高澤 玲子　竹内 誠　ちーちゃん
廣澤 貴理子　山崎 博樹　樹下 康治　徳田 朋大　須賀 千絵　田辺 浩介
hiro　土井さんサポーター　熊谷 慎一郎　あいうえお　大場 康智　木許 心源
松下 武司　谷 智治　松本 哲郎　山﨑 美和　神代 浩　余野 桃子
久戸瀬 瑞季　鴨志田 浩

匿名つぼんぬ@紫波町なにもし内科医　是住 久美子　菊地 繭美　岩間 朝美　小陳 左和子
布施 芳一　長谷川 毅　ゆうちゃん　種村 エイ子　山下 ユミ　矢田 久美子
今井 福司　萬谷 ひとみ　美王 孝文　安田 彩子　細田 恵子　s_akiko
鳥の図書館員　わたぬきくるみ　鈴木 翔子　小田垣 宏和　吉田 倫子　高橋 祐二
村上 さつき　Yasuko Ishikawa　小野田 美都江　ぎんちゃん　高下 知代　淺野 隆夫
森原 龍介　横多 綾　北條 伸一　しのぶサポーター　中島 ゆかり　鈴木 昌子
西山 卓郎　まるネコ　戸沼 如恵　matsuyuri　吉田 武史　蛾のおっさん
安田 宏美　相馬 立法　小川 勝弘　冨田 穣治　桑原 貞惠　鈴木 葉子
Tanaka　まちのライブラリアン　江口 亨　総合展飲み会の某残金グループ
Nishizawa　髙田 淳子　熊谷 育子　荻原 由美子　菅谷 明子　千田 つばさ
川村 路代　中村 直美　ちい　なち　情報ナビ交流会カンパ
鈴木 哉美　江上 真太郎　丸山 高弘　オオバ マキ　山根 麻衣子　宮崎 祐美子
谷合 佳代子　松井 史絵　Muu　梶川 悦子　鍛冶 智也　松岡 章子
岡田 有利子　Koike Hiromi　上田 欣也　Yusuke MASAYA　鈴木 敦　高柳 有理子
桐山 馨　藤坂 康司　らきりん　野村 国康　荻野 友美　すみっコ先生
苅田町立図書館館長 逆井 健　田中 裕士　八田 信　野間 勤　大矢 靖之
河野 由香里　中尾 有希子　道上 久恵　宮本 恭嗣　田中 敦司　柴田 英明
牛澤 典子　鈴木 崇文　ぐっちー

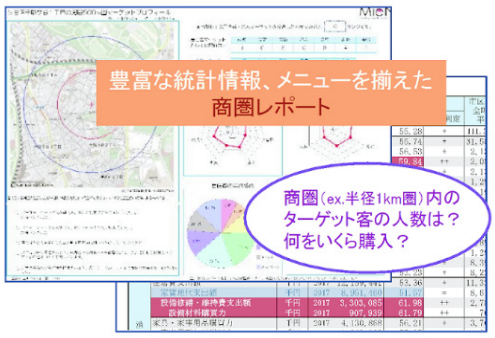
クラウドファンディングでご支援いただいた皆様

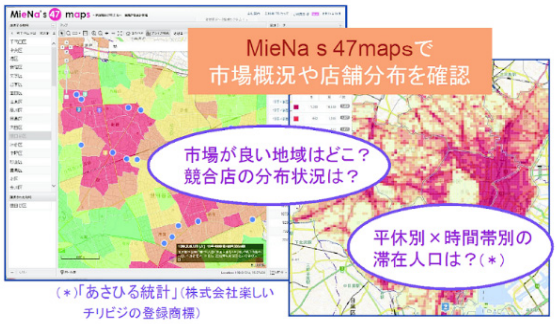


ビジネス支援図書館推進協議会　賛助会員の皆様

市場情報評価ナビ《MieNa(ミーナ)》がビジネス＆地域学習を支援します！

☆ 実用的な「商圏分析用・ｴﾘｱﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ ｻｰﾋﾞｽ」として全国の図書館で活用が広がっています。





(＊)「あさひる統計」(株式会社楽しい
チリビジの登録商標)

お問い合わせ
は こちらまで

NSC
Nippon Statistics Center

株式会社 日本統計センター
URL http://www.nihon-toukei.co.jp/
Mail：homepage@nihon-toukei.co.jp
東　京 (03)−3847−1701
大　阪 (06)−6441−5428
北九州 (093)−521−3726

富士通図書館システム WebiLis/iLiswing シリーズオプション

LibReCo（リブレコ）

詳細は➡
こちらから

FUJITSU

LibReCo は図書館システム（WebiLis/iLiswingV3）と連携して、
簡単な操作で読書の記録を専用の通帳に印刷することができます。

子どもたちの
来館促進に
つながります

世代を問わず
簡単に操作
できます

WebiLis/iLiswingV3
導入済みのお客様は
容易に導入
できます

shaping tomorrow with you

(株) 富士通システムズアプリケーション&サポート 図書館サービス事業部
https://cloud-app-support.fjas.fujitsu.com/

PRONEXUS

プロネクサスが提供する総合企業情報データベース
過去の法定開示書類をアーカイブしておくことが可能です！

※ご契約内容によりご利用頂けるメニューは異なります。

eol

企業研究に　業界分析に　就職活動に

国内株式公開企業を中心に**最大1961年**から
有価証券報告書を収録。

企業ホームページ等では把握がしづらい課題や
リスク、業界動向等、有益な情報が記載されて
おり、**各種検索機能より企業研究や業界分析
等、様々な場面でご活用**頂けます。

eol Asia one
Comprehensive Asia Company Data Service

アジア圏の企業調査・業界分析に

アジア圏主要15地域の現地証券取引所へ
上場されている企業情報データを収録。

現地で提出された開示書類や数値データを収
録しており、**各地域を横断した企業検索から比
較、調査**をすることや**各地域の通貨への切換え**
も可能です。

サービスの詳細や
お問合わせはこちらまで

株式会社プロネクサス　データベース事業部　https://www.pronexus.co.jp
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-7-1 興和一橋ビル 3F
☎：03-5843-9660　✉：https://www.pronexus.co.jp/home/eol/html/inquiries.html

プロネクサス　データベース
検索

一冊の本との確かな出会い

さまざまなかたちで「本」と「人」が出会う場所がここにあります。

紀伊國屋書店
www.kinokuniya.co.jp

Creating Global Financial Data Solutions

Founded in 1900, Mergent operates one of the largest continuously collected databases, including descriptive and fundamental information as well as pricing and corporate action data on domestic and international companies, together with terms and conditions on corporate and municipal bonds. In addition, credit and competitor information is readily available. Mergent, Inc. is a leading provider of business and financial information on global publicly listed companies as well as the exclusive provider of several D&B online library solutions. Mergent Has been serving public and academic libraries for 100 years.

MERGENT
by FTSE Russell

マージェント・ジャパン株式会社
〒100-0006 東京都千代田区大手町１－５－１大手町ファーストスクエアイーストタワー１１F
TEL：03-4563-6315 http://www.mergentjapan.com

一般財団法人 機械振興協会 経済研究所

ＢＩＣライブラリ

▶ OPEN
10：00-17：00（最終入館 16：30）

▶ CLOSE
土日祝祭日・毎月最終金曜日・
創立記念日（8 月 24 日）・年末年始

▶ ACCESS
東京メトロ日比谷線 神谷町駅 徒歩 8 分
都営三田線 御成門駅 徒歩 8 分
都営大江戸線 赤羽橋駅 徒歩 10 分
都営浅草線・大江戸線 大門駅 徒歩 10 分
JR 線 浜松町駅 徒歩 15 分

東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 B1F
Tel. 03-3434-8255 Web サイトはこちら ▷

ＢＩＣライブラリは
機械産業の専門図書館です

- 機械関連団体の報告書など 2 万点にのぼる灰色文献のコレクション
- 内外の統計情報や企業情報
- 約 460 タイトルの雑誌・業界新聞
- 最新の産業レポート

※ 館内で自由に利用できます（貸出は会員のみ）

レファレンス 電子ライブラリ ミーティング WiFi

プレミアムブース
個人ブースは 4 時間まで
どなたでも利用可能（5 室）

ディスカッションスペース
最大 24 名利用可能な会議室
（会員のみ利用できます・要申込）

地域の人々とともに　明るい豊かな社会をつくる

ヤオキン商事株式会社

沿革

明治３８年に八百屋として創業。地域のニーズに応えながら、燃料商社、自動車関連事業へと業態を拡げて足立区で 114 年。2005 年からは図書館や学習センターなど、公的施設の指定管理事業を受託する施設管理部を設けています。

会社概要

■本社所在地：東京都足立区　■従業員数：590 名
■受託施設：足立区立生涯学習センター、舎人地域学習センター・図書館、竹の塚学童保育室、ギャラクシティ、上戸田地域交流センター・戸田市立図書館上戸田分館ほか、計 13 施設。

目指すのは
人と人とのつながりを育む
交流と賑わい

お問い合わせ
ヤオキン商事株式会社　http://www.yaokinsyouji.jp
〒120-0015　東京都足立区足立４丁目 28 番 10 号　☎03-3889-3555
担当：総務部総務課　吉田　✉soumu@aa.wakwak.com

2021 海外図書館研修　次世代の図書館を考察するフィールドワーク型研修

図書館総合展
MARUZEN-YUSHODO

図書館総合展運営委員会と丸善雄松堂では、図書館支援サービス事業の一環として、海外の図書館や関係機関を訪問するフィールドワーク型研修を2013年より実施しております。これまで大学図書館をはじめ、公共・専門・企業・修道院図書館など100館近くを訪問し、200名を超える方にご参加いただきました。先進的な事例に触れる機会として、海外の図書館のバックヤードツアーや現地職員とのミーティングなど、本研修ならではの貴重な体験をご提供いたします。

point 01 事前説明会の開催
point 02 海外の図書館や図書館界の情報提供
point 03 図書館・学術情報に精通した通訳が同行
point 04 現地職員とのミーティング
point 05 研修後の情報共有やフォローアップ

2021年の訪問先予定

ALA・米国図書館研修
2021 6.26～7.3（予定）

ドイツ図書館研修
2021 10.17～10.23（予定）

シンガポール図書館研修
2021 12.2～12.5（予定）

訪問先及び時期は現時点での予定であり、新型コロナウィルス感染症等の影響で企画が変更・中止になる場合がございます。
また、旅行日程および代金の確定は2021年1月以降を予定しております。

お問合せ　丸善雄松堂株式会社　事業企画推進室　海外図書館研修事務局　〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18　メール：BizDev@maruzen.co.jp

2019
1989
1926
1912
1874

ヨミダス歴史館
Yomiuri Database Service

――「横断検索」登場――
明治から現代までの一括検索が可能になりました。
1か月間の無料トライアル実施中です。

読売新聞東京本社メディア局事業部
電話 03-3216-8513、メール yomidas@yomiuri.com
https://database.yomiuri.co.jp/

<ALA2019 ジャパンセッション準備委員会メンバー>

田村俊作
豊田恭子
越塚美加
結城智里
高橋真太郎
桂まに子
三浦なつみ
今井つかさ
野澤義隆
伍井結花

<現地協力>

豊田高広
嶋田学

米国図書館協会(ALA) 2019 年次大会
「ジャパンセッション」報告書
2019 年 11 月 12 日発行（限定 400 部）
2020 年 10 月 18 日第 2 版（ホームページ公開）

ALA2019 ジャパンセッション準備委員会
URL: https://www.facebook.com/ALA2019JapanSession/
Email: ala2019japansession@gmail.com